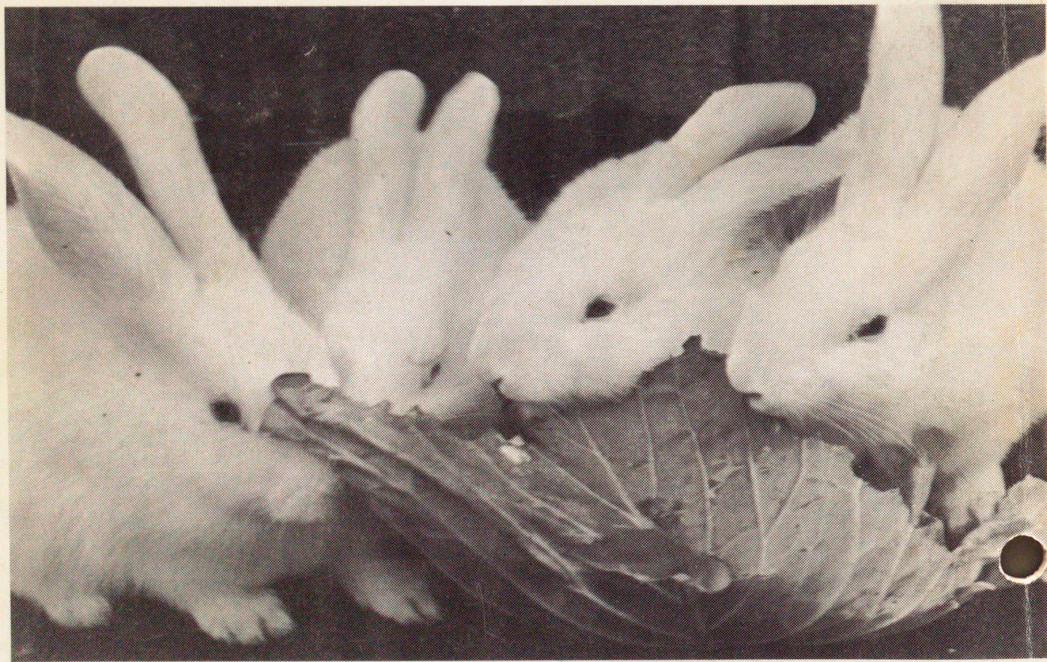


ふじみの



No. 25 1986

東京農大畜友会

茂原寮歌

一、黒潮の風房絵の

松の梢に打ち吹かば
あ若人の意気に燃ゆ
土の文化を進めんものと
ここに集える常磐寮

二、明日に星を仰ぎつつ

科学の鋏を手にとらば
あ果てしなき経堂を
同胞と共に進まんもの
ここに集える常磐寮

巻頭言

畜友会委員長 中山 昭 洋

俺達の時代が来た。今まで通りに安心してるときではない。なるべくそのまま
と、甘えている時代ではないのである。

今までがそうであったから、これからもそうであると流れるままに、身をまかせる
安易な時代はもはや終わったのである。

眼をさまさなければいけない、温湯に漬かり過ぎた心と身は眠ってしまっている。
強くゆさぶり起こさないと、眠りからさめない。

俺達は、時代という扉を押し開けなければならぬ。が、押し開けるのは容易では
ない。汗も流す。血もにじむ。時にはつまずき倒れるかもしれない。が、仕方がない。
また起きあがり、前のめりに歩いてゆくしかない。そうでなければ新しい展望はひら
けない。

周りをよく見てほしい。きざしは一ぱいある。

目次

巻頭言

畜友会委員長 中山 昭洋 1

畜産物(肉)利用学研究室 15

乳利用学研究室 23

御一報

勉強について

教授 杉村敬一郎 4

慢筆・古代日本の乳文化への誘い

教授 鶴田文三郎 6

常夏の国フィリピンでの日本鶏へのラブコール

教授 一戸 健司 9

農場だより

家畜繁殖学研究 19

26

畜産経営学研究 17

24

家畜衛生学研究 19

26

別海だより

「牧場のイメージ」

講師 小林 茂樹

29

サルデニア島

助教授 大谷 忠

30

研究室だより

昭和六十年卒業論文題目

家畜育種学研究室 12

14

別海町酪農実習

畜産学科2年 高橋 宏之

31

別海町実習記

畜産学科2年 宮川 幾代

33

別海実習を終えて

畜産学科2年 藤城小百合

35

集う学友

緑のはっぴと茂原寮歌に乾杯

畜産学科33期 都築 延吉 37

都会のねずみ考

畜産学科3年 古田 多美 38

“友”

畜産学科3年 赤井 秀次 40

仕合せについて

畜産学科1年 塚本 涉 41

派米農業実習報告

畜産学科1年 開澤 浩義 42

サークルレポート

意地

野生動物研究会 47

牛飼いの会の紹介

牛飼いの会 48

畜友会だより

昭和六十年畜友会行事報告

49

昭和六十年畜友会会計報告

50

第九十三回収穫祭畜産学科会計報告

51

第九十三回収穫祭畜産学科統一本部
宣伝隊々長を終えて

山田 隆明 52

「THROUGH THE BROKEN HEART」

古橋 一人 53

家畜苑

畜産学科3年 室越 孝 54

収穫祭を終えて

畜産学科3年 高橋さやか 56

体育祭を終えて

畜産学科2年 西川 二朗 58

昭和六十年第九十三回収穫祭役員

59

昭和六十年第九十三回収穫祭報告

61

畜友会規約

64

編集後記

69

勉強について

教授 杉村 敬一郎

昔にくらべると大学を出る人の数も多くなってきた。日本は特に世界中でも多い方だろうと思える。それだけ世界の人達に対して重い責任を持っているのだと云うことを自覚すべきだと思う。ことに我々は食の生産と云う人類にきわめて基本的な課題を担うのであるから、国際的な視点での任務は重い。

卒業ののちも、その専門を活かす所に仕事をもとめるように心がけなければならぬ。全く無関係な処へ行くのは安易で無責任である。

在学中に気付いておくべきことに、一般教養のことがある。こゝで勉強する語学、数学などの基本的な学問の実力が卒業生各位の個人的実力である。世間に出たら自分で調べ、自分で考えなければならぬからである。専門教科で得た知識は多くの場合技術の現状であり、自然科学のその時点での成果である。時とともに古くなって行く。従って語学や数学などの基本的な力の弱い者は技術者として時流にさがけて進めなくなってしまう。

単位さえもらっておけば良いと云うものではない。一般教養での生物学の知識は動植物を純粹な理学的側面から見た基本的なものであり、畜産学科でのそれは、生産の場における応用展開である。

卒業論文をしっかりやると、このことの大切さに気がつくであろう。だから私は卒業はきびしくすることにしている。本人の為だからである。三年次までは講義をきいて、おぼえて、どれほど覚え、理解したかをテストされて、その繰り返しであった。卒業になったら一人の「科学研究者」である。如何なる発見をするかも知れない可能性の戦士である。その立場にあつては我ら教員と対等の立ち場にある。只、我々が多い経験によってアドバイスを与え、ガイダンスをするであろう。しかしそれは方法論の選択とか目的のしぼり方とか、成果のまとめ方などである。

学術情報を自分で得なければならぬ。それは教科書や参考書からは得られない。解説冊子からも得られない。それは学術雑誌の原著報文からしか得られないのである。科学技術者が責任を以て世に信を問う唯一の場だからである。そのときに語学力がすぐものを云う。正確に理解出来る外国語がないと正確な学術情報は得られない。自分の実験が終つて、まとめるときにはじめて数値の整理が自分のものとして理解出来る。このとき基本的な理能力がものを云う。整理しても、成果を論考しなければ「実験」であっても「研究」とは云えない。こゝで再び

語学力がものを云う。そして何よりも自らの頭脳による思考がものを云う。自発能動の勉強が君たちをはじめ「学士」とする。(S・60・5・2記)

慢筆・古代日本の 乳文化への誘い

乳利用学研究室
教授 鶴田 文三郎

「自由ですが、何か書いて」との勧告が学生からあり、このような事はこの農大にきて初めての事で一言なかるべからずと、ここに表頭に纏る慢筆を呈して、その責を負う次第である。

一話・最古の文化人

さて、「人類の百万年」という著筆もあるが、人類がヒトらしく生きたのは文化発見以後である。その文化は等しく農耕文化に起源を置くもので、最古はチグリス・ユーフラテス両海岸のシュメール文化であると教科書は教えてきた。ところがシュメールより更に四千年も前、(紀元前八千年頃)の最々古の文化がトルコの南東部チヤイオニユ地方にあった、いや、それより更に四千年も前の最々古の文化がメコン川のデルタ地帯ノンノクサにあったと、最近調査した遺跡は語っているらしい。となれば、南方からも渡来した私達日本人にとって、最古の文化人の子孫という意味で少し鼻が高い。

で陳蔵器が七九三年に書いた本である。

ということは、炎帝神農の神農本草經には乳のことはなかったが、その継承書の中に、何時頃からか、乳が食として入っている。ではその頃は何時かとなると、孟詵が六五〇年頃書いた「食療本草」の牛乳の部だけは燉煌千沸洞の石室から発見されていないが、前述の本草拾遺の書き方からみて、乳が食としてあったと推察される。ともあれ、中国が乳や乳製品を食として利用した時代は何時かに答える資料は未だ発見されていないが、「崔氏食經並びに「食生素」からみて、おそらくとも六朝時代であろうと推測されている。

四話・仏典と共に

動物から乳を搾り、それを乳製品にして利用する。すなわち、乳文化発祥の地はトルキスタンのアナウ丘付近と、比較言語論的に私は考証しているが、これは大変難しい。このアナウなる地名は、今認められないが、カスピ海東方約五〇〇キロのところ、頃は紀元前四千年前の印欧語渾一時代と推定される。しかし、シュメール文化の地のウル近くのアル・ウバイドで発掘された「酪農のフリーズ」が考古学的に実証された乳文化の始めである。ともあれ、この浮彫は相当乳文化の進んだ姿を示している。浮彫の語る時代はウル五朝の初期であるので紀元前三千年より古くはないと考えられる。さてこの乳文化は如何にして全世界に伝播したか、或いは乳文化発

二話・日本の文化は

とはいっても、日本人に大きな影響したのは、シナントロプス・ペキネンスの子孫である黄河流域人である。これら古代流域人に語り継がれてきた農耕のこと、食物のこと、医薬のこと共を張仲景が紀元前五百年頃集録したのが「神農本草經」でこれは火徳の五と崇められた炎帝神農氏の伝説的なものとして集約されている。この思想が脈々と証類本草、本草綱目に流れ、日本の食思想をも支配したといえる。神農に大きく影響された日本の農業神大気津比賣(女性)は、

かれ(大気津比賣)殺されたまえる神の身に蚕生り、二つ目に稲植生り、二つの耳に粟生り、鼻に小豆生り、陰に春生り、尻に大豆生りき。と、古事記に記されている。日本の農業神には家畜も、乳すなわちと蜜の流れるところに文化あり、ではなく、作物と蚕のあるところに文化ありである。これこそ、古代黄河流域人が創造した黄河文化の姿であろう。しかし、その仰部遺跡も半波遺跡も未だこの文化の年代を語っていない。

三話・黄河人に乱が

日本人である丹波康頼の書「医心方」(九八四年)の牛乳の条に、

拾遺云。凡服乳必煮一二沸。停冷啜え。

と書いてある。これは、牛乳は必ず煮沸してから冷して飲用せよ、と「拾遺云」の拾遺とは「本草拾遺」のこと

祥の地は一元的か、多元的かは古川徳先生も研究しているところである。

推定するところ、遅くとも六朝時代乳文化が黄河流域に入った、となるとその頃は約五八〇年以前になる。

では、その運び屋は誰かとなるが、涅槃經に、

從牛出乳。從乳出酪。從酪出生蘇。從生蘇出熟蘇。

從熟蘇出醍醐。醍醐最上。若有服者。衆病皆除。

とあり、また、釈尊は、

長い若業の後、スジャータの捧げし乳粥で元気を回復し、悟りを開いた。

と仏典にある。このことから、紀元前四三〇年以前にインドには乳文化があり、また、仏散は大変乳文化がお好きであったことになる。したがって、その仏散を仏図澄が三〇八年に、法頭が四一四年に中国に伝えているのでその時代に仏典と共に乳文化も入って来たと、日本の例からみても考えられる。すなわち、乳文化の運び屋は仏教であったことになる。

五話・日本上陸

それから、それ程時を経ている頃、記録を辿ってみると、新撰性氏録・在京諸蕃下に、呉人智聡なる者、欽明天皇二三年(五六二年)に内外、葉書、明堂円など一六四巻をたずさえて帰化し、その男善那は牛乳を朝廷に献じたので大和葉使主の姓を賜り、その子孫相承けてその職を世襲せり。……

という意味の記録がある。たずさえた書は今はないが、その後の政事要略の記事によると、文武天皇の御代（七〇一〜七〇四年）、使を諸国につかわして、「蘇を造らしめた」とあるので、奈良朝末期には乳加工は全国に普及したと考えられる。そして、延喜典藥寮式に「供御の牛乳の取扱い法」なども記され、いわゆる「貢蘇の儀」（年貢米のようなもの）が始まったとみられる。なお、大政官符・七道諸国司に蘇軍として、

納籠進・不須檜杉等櫃。

とあり、蘇は木製の容器に入れないで、カゴに入れて献ぜよ、とあることから少々ベタベタした乳製品らしい。ともあれ、仏教と共に日本にも乳文化は上陸した事になる。

六話・その姿

当時の乳製品は乳、酪、蘇、醍醐の四種であるが、前者は消失した。何れにしても、それらの乳製品はどんなものであったろうか。この判断が大変むずかしい。その理由は、印度からの仏典にも、中国からの神農本草經の血を引いた約二の種類の本草書にも、そして、当時の日本政府の記録の延喜式にもあり、それらの酪蘇表現が少しずつ異なるからである。紙数も少なくなったので、政府の記録によりズバリ書くことにするが、

薪日別一百十斤。煮牛粥。

と延喜典藥寮式にあり、この牛粥はニウノカユで、倭名

「常夏の国フィリピンでの日本鶏へのラブコール」

教授 一戸健司

〇〇系、△△系と言う採卵用鶏種やブロイラー用鶏種が巷に氾濫する中で、日本古来の美と実益を兼ね備えた数種の日本鶏が、ブロイラーの肉質改善の見地から再認識される様になって来た事は真に喜ばしい限りである。日本鶏と言えどもすると「小国」、「尾長鶏」、「糞曳」等の様にその外観の優雅さを競うもの、「チャボ」、「ウズラ」の様に小型でペットとして愛好される鶏種を連想し勝ちであるが、日本鶏の中には「シャモ」「薩摩鶏」の如く闘鶏に用いる反面、美味な肉質を誇るもの、「比内鶏」、「名古屋」の様に卵肉ともに優れた実用的鶏種としても立派に通用するものが含まれている事を忘れてはいけない。現に東京都の畜産試験場では、「シャモ」と「ロードアイランドレッド」を交配し、日本鶏の優れた肉質をコマーシャル鶏に導入する試みが実施されている。

さて、一度目を海外、特に後進国に向けた場合は、どうなっているであろうか。彼の「アキノ暗殺事件」以来、政情不安で揺れているフィリピン共和国でも、先進国からの実用鶏種の導入が都市近郊の養鶏場で行なわれてい

類聚抄に乳酪和名邇宇能可遊、また、温牛羊乳日酪とあり、これから酪はニウノユカ、すなわち、今日のヨーグルトのようなものと考えられる。次に、延喜民部式に、

作蘇之法。乳大一斗。煎得蘇大一升。

とあり、蘇は加熱濃縮したようなもの、かつ前述したように、カゴに入れて献ずるもので、ある程度かたいものとなる。現在のチーズのような、バターのような製品であろうと考えられる。

さて、乳の流れた平安時代に音標文字の発見、文学の発表などなど、日本文化は大きく花を開いた。偶然かも知れないが、乳の流れた明治の初期も、戦後の現在も共に日本は破竹の勢で発展した。このような魔力をもっている「乳」を静かに見なおしたい。

る反面、在来鶏は肉質もよく、一方その雄は闘鶏用に使えるため、これを何とか改善し、更に出来る事ならばそれに日本鶏の優れた産肉性を導入したい、という試みがフィリピン大学を中心に進められている。

筆者らは、これに先立ち、数年来ルソン島北部イロコスノーテの「マリアーノ・マルコス大学（マルコス大統領の父親が開校した）」に毎年足を運び、筆者らが一千九百八十三年、一千九百八十五年に持参した「名古屋種」を中心にしてこれを在来鶏に交配し「名古屋」の強健性と優れた飼料の利用性を活用した「在来鶏の改良が開始されて居り、おそらく今頃はF₂世代の成育調査が行なわれているものと思われる。

マニラのマーケットでは、体重四百五十〜七百五十グラム程度の小型の在来鶏の雌が五十ペソ（八月現在約八百円で売買されており、ブロイラーの肉が一キログラム当り十五ペソ（二百四十円）で販売されているのに較べ格高に格付されている。この事は、在来鶏の雄鶏が四百五十〜五百ペソ、更に闘鶏用鶏種の代表とも言える「チキラス種」の血を含むものは、二千ペソ以上（労働者の平均月収は、一千ペソ）の高価である点を併せ考え、彼等の在来鶏に対する愛着は、極めて強く、従ってフィリピンの実状を考慮に入れた場合、同国における鶏の改良は次の様な順序で実施するのが妥当であると思われる。

在来鶏が闘鶏のみを主眼とした無計画な繁殖を実施されて来たため、その形質が種々雑多である点より、先ず



マリアーノ、マルコル大学における記念植樹

これ等を肉質・肉量並びに産卵数の点から羽色体型等外部形態を考慮に入れながら幾つかの系統に分類する。次いでこれらの中から採肉・採卵に適合した系統をそれぞれ一つずつ選出し、これらの各々について遺伝子の固定を行うべく近親交配を実施する。その固定がある程度進んだ段階で強健で実用性に富む日本鶏の血液を導入し、選抜淘汰を繰返しながら実用鶏種の作出をはかるのが順当であるまいか。この場合若し可能であれば雄には闘争性を持っている事がより現実的に即していると思う。誰しも闘争と肉用とを兼ね備えた日本鶏と言え「シヤモ」を連想するであろう。筆者らも出る一千九百八十三年に「シヤモ」四羽と「名古屋」三羽を持参したが、「シヤモ」はそのいかつい外貌にも似ず環境の変動に伴うストレスに弱く四羽とも死亡し、彼等が育成出来たのは「名古屋種」の雄一羽のみであった。そのため去る八月の渡般時には「名古屋」の中雛のみを十羽持参した。当大学は、筆者の好意を永久に記念するため「なら(?)」の植樹を計画した。この木の育つ限り「名古屋種」の名は、彼等の記憶に残る事であろう。又私達も今後折があったら「名古屋」以外の品種を持参するであろう。

現在フィリピンには一万余千人に及ぶ共産ゲリラが居り、彼等は、着実にその勢力を拡張していると言われ、一方首都マニラではマルコス対反マルコスの対決が次第に尖鋭化している。



マリアーノ、マルコス大学にて畜産学科の職員達と

南国の太陽がさんさんと輝く平和な土地イロコスノチ、そしてその主都ラオヤグを中心に分散しているマリアーノ、マルコス大学の急速に整備されて来たキャンパス。(そして)これを心のよりどころとして生活している職員と学生達。総べてが世知辛い駆け引きに明け暮れる主都マニラとは正反対のこの静かな土地を政権を巡る闘争の場からは守り抜きたいものである。

夕闇せまる椰子の木陰でギターに合わせ甘いメロディを切々と歌い、一度曲がロックに変われれば一変してゴーゴーに興ずる彼等の姿を見るにつけ、美しい自然と激しい時勢の変遷が交権し、何んとも言えぬ奇異な世界へと私達を誘なう。

サンバギターの香りとエメラルド色の海、これだけは私が十七年前に誘われた時と今も変わらない。

研究室だより

昭和六十一年度
畜産学
卒業論文題目

家畜育種学研究室

柴田教授、鈴木教授、田中教授、天野助教



家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、特に血精学・細胞遺伝学、分子遺伝学的見地から、広範囲にわたり研究活動が実施されております。当研究室では、柴田寛三教授をはじめ、田中一栄教授、天野卓助教授の指導の下に古郡実験助手・大学院6名、4年生17名、3年生9名で構成され、室員各自の自覚と互いの協力により、それぞれの目標に向かって頑張っております。

研究室における日常の活動は、実験動物の飼養管理による家畜との接触や毎週行なわれている定例室員会のおかげに、卒業等の研究、実験における問題点を解決する為に、昼夜を問わず熱心に討論されております。さらに研

究活動は学内だけに止まらず、先生方は学会や研究の為に海外に出張されたり、また学生も他大学及び他研究機関に出向いて研究を行っております。研究室における年間の主な行事としては、新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会などがあります。因みに昭和六十年度の卒業論文題目は次の通りです。

学籍番号 氏名 論文題目 指導員

チ82 104 対馬 郁夫 青森県におけるホルスタイン雌牛の血統情報については 柴田

チ82 132 濱田 昌平 スリランカ在来牛並びに水牛の核型分析 天野

チ82 178 渡辺 一光 血液蛋白型を指標とした山羊集団の類縁関係に関する研究 天野

チ82 060 近藤 泉 韓国在来山羊の導入と実験動物化に関する基礎的研究 天野

チ82 118 中山 秀幸 ニホンジカの2・3地方集団における頭骨の計測学的研究 柴田

チ82 177 米村 麻美 ホルスタイン雌牛の体重との関連性—特に体尺測定6部位に関する重回帰分析— 柴田

チ80 102 早乙女美幸 近交系マウスにおける産次別及び産仔数と生育各期の体重との関係について—分散分析及びクラスター分析法による平均分離 柴田

チ82 126 野村 こう 牛血液型モノクローナル抗体の産生に関する基礎的研究 天野

チ82 146 前地サトミ 等電点電気泳動法による2・3の動物種間における血液蛋白型比較 天野

チ82 025 宇賀神恵子 豚の白血球型に関する研究—特にパネルセルによる抗体の分析— 田中

チ80 168 山口 和子 ホルスタイン雌牛の体重と体尺測定値との関連—特に胸囲からの体重測定尺について— 柴田

チ82 018 市石 学 イノシシの上顎骨の計測値による分類学的研究 田中

チ82 075 庄田 昌代 マウスの高近交系F₁雑種に現われる産仔数のヘテロシスについて—着床痕並びに、初期発生胚胎観察よりの説明— 柴田

チ82 076 新保 紀子 ウサギの血液蛋白・酵素型に関する研究 柴田

チ82 141 藤野 葉子 レクチンによる馬赤血球抗原の分類 田中

チ82 084 鈴木 昌美 馬血清蛋白における二次元電気泳動法による分析—Pi型 (Protease inhibitor) の検出— 天野

家畜生理学研究室



渡辺教授

生理学とは、国語辞典で牽くと「生物体のはたらきを研究する学問」であると記されています。科学がいくら進歩したといっても、まだまだ生物体には、謎の部分が多いのです。また既に説明されていると思われる事柄でも、その謎の部分で人間の都合の良いように解釈して、正しい事としているのかもしれない。生物体の複雑且つ精巧な機構を解明する為には、地道な実験の積み重ねと、得られた結果に対する正確でしかも客観的な判断力が要求されます。

我が家畜生理学研究室では、前記の事柄を常に念頭に置き、「家畜・家禽の代謝に関する生理遺伝学的研究」「家畜・家禽の体液に関する免疫学的並びに血清学的研究」「家畜・家禽の細胞膜に関する研究」「家畜・家禽の内分泌生理に関する研究」の四つを主要テーマとして、それぞれ畜産物の生産向上という畜産学における一大目標に向かって日夜研究に励んでいます。

室員構造は渡邊誠喜教授をはじめとして、岩崎、半澤

室費各副手、院生一名、四年次生三名、三年次生十八名よりなり、研究室としては、中堅クラスと考えています。飼育家畜は、めん羊、やぎ、兎、モルモット、鶏、鵜と種類も飼育頭羽数、共に豊富であるため、これらの日常管理に苦労することもありますが、その半面これら動物に直接する機会が多く、学生自身自身の経験から、多くの事柄を学び取ることができて非常に有意義であり、且つ楽しいものがあります。室員の構成人数が比較的少ないため学生一人一人の存在が大きく、且つ重要なものとなっており、それだけに自分というものを出していくことのできる研究室だと思っています。

研究室の年間行事としては、新入室員歓迎会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会なども行う一方、年間を通じて週一回の室員によるゼミナール及び談話会、学外講師による特別講演会、富士農場実習などがあり、これらの成果を室報にまとめて発行しております。

卒業論文題目

- ♯82 038 高力しのぶ 馬赤血球中の遊離アミノ酸型のアルギナーゼ活性値とオルニチン型に関する生理遺伝学的研究

- ♯82 143 藤原 道子 日本ウズラにおける、羽毛タンパク質の電気泳動的解析

畜産物(肉)利用学研究室



鬼原教授、松岡講師

我が、畜産物(肉)利用学研究室は、通称「肉研」と呼ばれ、教授の鬼原新之丞先生、講師の松岡昭善先生を両翼に、四年次生、三十四名、三年次生、二十四名で、構成されていますが、各自の肉研究室という自覚が強く、自分の置かれている立場をよく理解し、密度の濃い実験を昼夜を問わず行なっています。

今日の世界の畜産界において、ヨーロッパを中心とし、食肉加工肉を含めた食肉産業は、年々その発展成長が著しい部門です。当研究室では、その食肉産業界に新風を送り込むべく、食肉加工に関する諸問題を扱っている研究室である。四年次生なるものは、微細にわたって、肉の化学、各種実験方法を教示し、三年次生は、卒業論文の手伝い等、実験の潤滑油として活躍している。

このように食肉加工に関する研究を基盤としている肉研であるが、収穫祭においては、肉製品の製造及び販売を行ない、地域住民との暖かい結びつきを行なっています。

また、肉研の雰囲気として、四年次生と三年次生の明確な区別はせず、いつもわきあいあいである。酒宴の席においてはなをさらそうである。この雰囲気を大事にし、学習面では、更に先輩方々の築き上げてきた研究結果と肉研精神を基盤とし、日本畜産における、すばらしい成果を生むよう、日夜、努力していきたいと思っています。

卒業論文題目

- ♯82 013 池田 覚 家兎肉のソーセージに関する研究

- ♯82 020 伊藤 光久 ハムの凍結保存中の変化に関する研究

- ♯82 022 井上 和悦 イノブタの無去勢が肉質に及ぼす影響
- 雌イノブタとの肉質の比較

- ♯82 033 落合 正恵 豚肉の再凍結に関する研究
- タンパク質の抽出性およびソルビトールセレジエマルジョンの保水性に及ぼす再凍結回数の影響

- ♯82 035 小野寺正宏 鶏肝臓の凍結温度の品質への影響

チ82 121	永野 浩二	免疫学的方法による市販ひき肉の動物種鑑別	松岡 天野
チ82 119	永井 正行	鶏肉の死後変化に関する研究	鬼原
チ82 116	中村 愛子	ポークソーセージの酸敗と細菌の発育に対する包装法の影響	鬼原
チ82 102	丹木 隆宏	牛筋肉の利用に関する研究	鬼原
チ82 101	田村 雅彦	フレッシュソーセージの貯蔵性におよぼすガス封入包装の影響	鬼原
チ82 096	田中 吉明	家兎肉のソーセージに関する研究	鬼原
チ82 092	武沢 吾一	フレッシュソーセージの貯蔵性におよぼすガス封入包装の影響	鬼原
チ82 090	高原 潤	イノブタの無去勢が肉質に及ぼす影響 雌イノブタとの肉質の比較	松岡 鈴木(伸)
チ82 154	三浦 聡一	ロースハムの酸敗と細菌の発育に対する光の影響	鬼原
チ82 153	松久 香	兎肉の死後変化に関する研究	鬼原
チ82 142	藤本 隆	免疫学的方法による市販肉製品動物種鑑別	松岡 天野
チ82 086	千賀 徹	ハムの凍結保存中の変化に関する研究 ロースハムおよびプレスハムについて	鬼原
チ82 079	末永 徹也	超高圧処理の畜肉加工への応用に関する研究 (筋原線維タンパクのゲル形成に与える超高圧処理の影響)	鬼原
チ82 066	桜井 美子	市販プレスハムの品質について テクスチャーについて	鬼原
チ82 039	加藤 泰宏	ホロホロ鳥肉の死後の変化に関する研究	鬼原

チ82 164	安岡 竜二	イノブタの肉質に関する研究 去勢イノブタと雌イノブタとの比較	松岡 鈴木(伸)
チ82 173	吉岡真三司	イノブタの肉質に関する研究 去勢イノブタと雌イノブタとの比較	松岡 鈴木(伸)
チ82 174	吉崎 徹	ひき肉の貯蔵性に及ぼすガス封入包装の影響	鬼原
チ82 037	笠井 俊宏	鶏肉の肉質におよぼす冷却、凍結の影響	鬼原
チ82 089	高橋美陽子	ポークソーセージの酸敗と細菌の発育に対する包装法の影響	鬼原
チ82 130	則武 新吾	各種魚肉配合混合ソーセージの品質について	鬼原
チ82 136	平柳和歌子	豚肝臓の凍結温度の品質への影響	鬼原
チ82 130	羽田 仁	鶏肉の死後変化に関する研究	鬼原
チ82 161	本橋 一浩	ひき肉の貯蔵性に及ぼすガス封入包装の影響	鬼原
チ82 039	宗像 剛嗣	フランクフルトソーセージの凍結保存中の変化に関する研究	鬼原

畜産経営学研究室



新井助教授、石岡講師

当研究室は、本年の春、桜井教授が御退職され、現在では、新井助教授、石岡講師、四年生二十四名、三年生二十六名で構成されています。
ただし、現状では室員は約半数ずつ、その室員も実状は大量の幽霊室員を抱えています。
とにかく当研究室の特徴は、研究室員の姿を認める事が、非常に困難である事が上げられます。
又、研究室の行事を知らない室員が多い事や、ゼミの人数が非常に少ない事も大きな特徴です。
当研究室では、学科内の他の研究室とは異なり、家畜を飼っていない為に、家畜当番が無い事も、研究室が空

空になりやすい原因かも知れません。
 年二回の研修旅行には、参加者も多いのですが、なしる普段からもっと研究室に参加しなければ、三年生時には夏休みに、農家での二週間に及ぶ体験実習があります。
 この実習は、はっきり言って良い勉強になり、農家に對しての理解が深まると思います。
 最後に、各研究室員が目標意識をもつことが必要であると思います。

卒業論文題目

- チ82 083 鈴木 浩之 酪農経営結果からみた収益性分析
 S牧場の経営分析を中心に：
 吉村 正夫 三重県の肉牛肥育における現状と展望
 山田 寛 オーストラリア肉用牛の生産と流通
 「自然災害における生産への影響」
 田辺 政光 繁殖経営の経営分析と改善設計
 新井

- チ82 137 広嶋 一雄 水田単作地帯における養豚の実態（とくに存在意義と発展性）
 堂平 幸司 我国における牛肉生産の可能性と展望
 神宮 信夫 昭和五十年以降における畜産経営の動向と展望
 坂齊 雅治 水田酪農における現状と展望
 栃木県足利市一牧場の経営分析を中心に：
 寺島 慶次 酪農家における粕類（トウフ粕）利用の経済性比較
 豊島 丞二 山地利用の放牧酪農経営
 O牧場における急傾斜地放牧
 井上 武久 都市近郊酪農に於ける現状と問題点
 神奈川県中郡二宮町に於けるI牧場経営の今後
 新井

- チ82 170 山田 達哉 都市近郊酪農における生き残りの条件（横浜市の酪農を参考とする）
 千葉 久光 宮城県栗原郡における酪農の現状と問題点
 大木 聡 一牧場を通して見る都市近郊酪農の展望と課題
 小泉 要 安房酪農の現状と問題点
 桜井

- 082 浅沼 由樹 卵学卵場における経営の事例分析
 北出 成人 軽種馬生産における現状と今後の展望
 本谷 直 採卵鶏インテグレーションの出現から現在まで
 増村 健治 牛肉価格変動とその要因について
 森本 育子 我国の国際的比較
 石岡

家畜繁殖学研究室



一戸教授、石島教授、門司講師

我が家畜繁殖学研究室は、一戸教授、石島教授、門司講師、河野副手の指導のもと、大学院生一名、四年生三十七名、三年生三十四名の室員で構成されています。室員は、各自の希望する家畜、家禽別に、牛班、豚班、家禽班、実験動物班の四班に別れ、第一実験室（家禽）、第二実験室（大中国家畜）、第三実験室（実験動物）の三つの実験室で、精子、卵子やホルモンの研究に励んでいます。
 各動物班では、週に一回ゼミナールを開いて、文献を讀んでの討論、卒論の説明など、お互いに知識を交換し研究をより一層中身のあるものにするようにと、努力しています。
 また、当研究室は家畜人工授精の講習を受けるにあた

っても、普段から家畜繁殖に関する研究にたずさわっているもので、日常飼育管理の中から学びとれるものがあることと思われま。

研究の主要テーマとしては「家畜の人工授精に関する研究」、「家畜の繁殖生理に関する研究」、それに、今話題のバイオテクノロジーの一環でもある「家畜の性現象の人為支配に関する研究」と様々です。

また、当研究室においては、研究室の中だけでなく、広く世界的にも視野を向けており、特に近年では、フィリピン、スリランカなど東南アジアにおける水牛及び野鶏の研究が毎年行われ、室員を外地に派遣し、フィリピンにおける人工授精の確立及び在来鶏、野鶏の生理を繁殖学的に究明せんと日夜努力を積み重ねています。

その他、我が研究室では、コンバも多くひらかれますが、大人数のわりにはまとまっているので、より一層団結し、収穫祭ではその成果が発揮されます。

卒業論文題目

♯82 001 青木 信治 山羊精液の一般性状および凍結保存に関する研究 門司
 ♯82 002 赤羽 大作 錠剤化凍結法による豚精子の凍結保存に関する研究 門司

♯82 009 新井 智明 錠剤化凍結法による家兎胚の保存に関する研究 石島
 ♯82 015 石神 幸男 宮崎県下における和牛の繁殖状況について―特に人工授精と受胎率の関係 門司
 ♯82 027 梅田 秀美 豚精液の液状保存ならびに凍結処理過程におけるアクロゾームの変化について 門司
 ♯82 029 大城 秀義 水牛の発情徴候に関する研究 門司
 ♯82 030 大場 裕幸 山羊の人工発情に関する研究 門司
 ♯82 038 片山 俊次 マウスの過剰妊娠に関する研究。特に妊娠後半期にプロラクチンを投与した場合の分娩成績と産子の正常性について 石島
 ♯82 040 金丸 英伸 豚及び山羊精液の代謝に関する研究―特に酸素消費量について 門司

♯82 041 金子 容子 北海道別海町における牛感染症の野外抗体調査 石島

♯82 085 関 光夫 雄ウズラの精巣におけるテストステロン産生に関する研究 河野

♯82 044 河村 昌宏 山羊および豚精子の凍結処理過程における形態学的観察 門司

♯82 087 高根沢 博 過剰排卵処理家兎の腹水及び血清の化学的性状について 石島

♯82 052 栗栖 好子 雌鶏の性成熟期における卵巣性ステロイドホルモン分泌特性に関する研究―特に *in vitro* における LH の影響について 一戸

♯82 097 田中理恵子 山羊及び豚精液中の酸素 (GOT、LDH) に関する研究 門司

♯82 070 沢柳 栄子 野生色およびパンダウズラにおける卵殻腺部の色素貯留状態および色素性状の比較検討 一戸

♯82 112 中川 純 水牛の調教方法と飼養管理の実態調査について 門司

♯82 072 柴田 久平 ラット 4 細胞期胚の体外発育に及ぼす EDTA の影響 石島

♯82 124 西出 克彦 ストロリー法による豚精液の凍結保存に関する研究 門司

♯82 080 菅原 淳 雌鶏の性成熟期における卵巣性ステロイドホルモンの分泌特性に関する研究―特に卵巣の性ステロイドホルモン濃度 一戸

♯82 128 萩原 正 岐阜地鶏の育雛期における血中性ステロイドホルモンの変動について 一戸

♯82 082 杉山 弘美 山羊及び豚精液の化学的研究 門司

♯82 129 波多野久子 ゴールデンハムスター 8 細胞胚の体外発生に及ぼす EDTA の影響 石島

〒82 135	平井 直子	PMSとLHIRH併用投与による家兔の過剰妊娠に関する研究	石島
〒82 140	藤田 律子	スナネズミの過剰妊娠誘起とその産子の正常性について	石島
〒82 150	松永 香	山羊精液の性状ならびに凍結処理過程における精子アクロゾームの変化	門司
〒82 159	武藤 一	豚および山羊精液の液状保存に関する研究—特に乳酸蓄積量について	門司
〒82 172	山野井茂和	未成熟ウズラにおけるクロアカ腺機能に対するテストステロンの影響	河野
〒82 179	渡辺 毅	山羊および豚精液の代謝に関する研究—特に果糖消費量について	門司

〒82 181	渡辺 光治	雌鶏の性成熟期における性ステロイドホルモンの分泌特性—特に血中P・T・E ₂ 濃度の推移について	河野
〒84 601	押切 修	ラットの非外科的移植における頸管刺激が妊娠成績におよぼす影響	河野
〒84 603	高橋 英則	雄ホロホロ鳥における加齢に伴う生殖器の発育及び血中テストステロン濃度の変化	河野
〒84 606	山岡 利彰	山羊及び豚精液の凍結保存に関する研究—特に精子の乳酸蓄積量	門司
〒80 132	中村 克彦	マウスの一卵性双子の人為的作出に関する研究—特に分離法および培養法について	石島
〒81 080	佐々木雄一	岐阜地鶏の抱卵期における血中プロジェステロン濃度の日内変動について	河野

乳利用学研究室



山中教授、古川講師

当研究室は、山中良忠教授と、本年度信州大学からお迎えした鶴田文三郎嘱託教授、及び古川徳講師の3先生の御指導のもとに、大学院生2名、4年次生13名、3年次生4名、2年次生3名、1年次生1名という比較的人数ながらも、室員が全学年にまたがってユニークな人材が集まり、全室員が皆掲力しあってより豊かな環境づくりを志しています。

今日、多様化する我々の食生活においても、古来より人間に利用されてきた乳と卵は重要な位置を占め、様々な種類の製品がスーパーや売店に並んでいます。当研究室では、乳・乳製品及び卵・卵製品の将来を見つめながら、蛋白質素材、副産物等に関する理化学的研究、及び食卵の品質低下防止、発酵製品と発酵中の変化等の微生物学的研究、さらには畜産物の生理活性についてといった広い範囲から、各自の研究テーマに向かって日夜はげんでいます。

その他の主な活動としては、毎週の文献輪読会、1年生の基礎化学実験の指導補助、5月に新入室員歓迎会、そして夏には乳製品製造実習、秋の収穫祭参加と初冬の室員旅行、2月には卒業論文発表会、卒業生送別会、また畜友会ソフトボール大会参加等があり、こうした行事には他に類のない団結力を発揮させ活動しています。

卒業論文題目

〒82 008	安積 淳也	卵殻の可溶化に関する研究
〒82 011	飯山 禮文	β -Laetoglobulinの化学的修飾による二次的抗原性とその応用に関する研究
〒82 014	石川 純	各種チーズにおける揮発性遊離脂肪酸の差異
〒82 016	石田さおり	チーズの揮発性成分に及ぼす製造法の影響

日本女子大学 長田絵里香
西南アジア地方のチーズ蛋白質組成のSDS電気泳動による検討

日本女子大学 鴨志田康江
ミルクフレーバー製造に及ぼすリパーゼ添加の影響

チ82 057 甲府方正幸
抗腫瘍活性に及ぼすケフィア
の多糖類について

チ82 065 坂梨久美子
ケフィアの多糖類とエタノール生成

チ82 069 佐藤木綿子
特許法にみられる卵業界の現状と将来

チ82 113 原 敬貴
各種チーズにおける無機成分について—特にCa、P含量—

チ82 114 古川 浩美
マウス胃内における各種チーズの消化分解について

チ82 115 三浦 正樹
analogue cheese powder の製造に関する基礎的研究

チ82 165 安原 友和
殻付卵の保蔵中における細菌数の変化

家畜飼養学研究室

杉村教授、伊藤助教授、栗原講師



今日我が国の畜産界は、世界的な穀物需給不安定による飼料価格の値上りの懸念、食品安全上の要請から配合飼料添加物の規制強化など依然として厳しい環境の中で、家畜飼養学および家畜飼養学研究室の占める位置は、ますます重要になりつつある。
「食こそ、生」。これは、人間だけではなく、家畜にとっても重要なことである。家畜飼養学は、学問的分野としても広い範囲にわたっている。すなわち家畜飼養・管理・飼養という三本柱のもとに、杉村敬一郎教授、伊藤澄磨助教授、栗原良雄講師を中心とした指導のもとに種々の研究活動を行なっている。
主な研究テーマとしては、アミノ酸、脂肪酸、エネルギー代謝、サイレージ、牧草、飼料管理、飼育管理等が

あり、多方面にわたり行なわれている。
研究室行事としては、富士農場に於ける畜産実習、群馬県畜産試験場、浅間育成牧場に於ける家畜管理実習ならびに、一般飼料成分分析演習等を行なっている。また室員相互の親睦を計るために、収穫祭の文展・模擬店への参加、ソフトボール大会、研修旅行、餅つき大会等を行なっている。

卒業論文題目

チ82 017 板橋 賢
沖縄県与那国島北牧場における野草の生産に関する研究

チ82 021 稲井 秀樹
生菌剤(バチルス・トヨイ)の添加がグラスサイレージ開封後の品質に及ぼす影響

チ82 031 大林 照昌
飼料中の可消化養分総量の相違が成兔の消化率に及ぼす影響

チ82 036 加来 功
亜熱帯産未利用植物(ギンネム・マンダローブの葉)の飼料価値に関する研究

チ82 078 神保 尚史
環境温度の相違が中雛のエネルギー代謝に及ぼす影響

チ82 045 神原 克也
生菌剤(バチルス・トヨイ)の添加がトウモロコシサイレージ開封後の品質に及ぼす影響

チ82 100 田端 浩
飼料中の不消化物量の相違が産卵鶏の消化および産卵に及ぼす影響

チ82 138 福沢 幸子
高水分グラスサイレージに関する研究

チ82 149 松井 浩平
亜熱帯産未利用植物(チガヤ・マコモ)の飼料価値に関する研究

チ82 162 本宮 一夫
飼料中の粗繊維量の相違が成兔の消化率に及ぼす影響

チ82 175 吉野 昌江
ビール粕サイレージの調整に関する研究

チ82 180 渡辺 直彦
環境温度の相違が子豚(中ヨークシャー種)のエネルギー代謝に及ぼす影響

#84 602 金子 裕之 豚における海藻中OCC(Organic cellular contents)の利用に関する研究

#84 604 納富 康司 乳用子牛の早期離乳に関する研究 荻原 伊藤

#81 132 開沢 浩義 ビール工業副産物の飼料価値に関する研究 伊藤 鈴木(伸)

家畜衛生学研究室

東教授、近江助教授、渡辺(健)講師



本研究室は、東量三教授、近江弘明助教授、渡辺忠男講師、各先生の御指導のもと、四年生十九名、三年生二十名、二年生二名の室員一同が一体となって活発なる研究室活動を行っている。

研究室活動としては、室員各自希望する家畜、家禽別に分け、牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ

各家畜、家禽の疾病に対する予防法及び糞尿処理、環境衛生など、研究を行っている(家畜、家禽の生命を脅かす種々の健康阻害因子を除去し、生命の延長をはかり、かつ生産を向上せしめることを目的としている)。

また本学家畜診療所においても一般外来動物の診療を中心に各種の研究活動が行われている。

その他研究室の活動内容は、年間行事として、新入室員歓迎会、ソフトボール大会、収穫祭参加(文化芸術展模擬店)研修旅行、送別会、定例会、ゼミナールなどがある。

このような、多面活動において学生生活の充実を計り室員各自の個性を引き出し、その個性を持ちより研究室独自の個性を創造するという事に我々は、目標をおいている。

十一月には、新役員も発足し、室員はますますはりきっています。

卒業論文題目

秋久保浩一 動物公園管理下動物における各種疾病の発生状況について 近江

秋山 淳一 ホロホロ鳥培養細胞の応用に 渡辺 関する研究

種山 徹也 自然観察会の動向と変遷―地域を対象とした自然観察会の博物館と他団体の比較― 中村

有井 啓幸 山梨県北巨摩郡における牛感染症の野外抗体調査 近江

池上 省吾 近畿地区における豚内部寄生虫の寄生状況について 近江

伊藤 正大 高座豚の歴史と将来性について考察 近江

秦 秀治 高知県須崎市におけるニホンカワウソの衰退の歴史と生態に関する研究 近江

小野 尚樹 神奈川県厚木市近郊における豚胃潰瘍の発生状況について 近江

高坂 昌則 薬物性肝障害大に対する塩酸レバミゾール投与後の血液、並びに尿性状について 近江

田中 太 流動パラフィン制剤Taxatoneによる縮糞の排除試験 近江

谷 正之 東京都世田谷地区における犬のブルセラ病並びにレプトスピラ病の野外抗体調査 近江

堤 秀人 東京都世田谷地区における犬のトキソプラズマ病の野外抗体調査 近江

友利 行男 沖縄県宮古島における豚のトキソプラズマ病並びに萎縮性鼻炎の野外抗体調査 近江

中島垂矢子 薬物性肝臓病における低周波治療器の診断的応用 近江

中村 亮子 ミヤリサン投与がヒナの抗体産生能に及ぼす影響 渡辺

長邊 陽介 東京都城南地区周辺に生息する帰化鳥(ワカケホンセイインコ)の行動調査 渡辺

服部 雄介 カメの生態に関する研究―特に繁殖行動について― 近江

半田 佳一 消化管内寄生虫卵に対する殺卵法の検討 近江

前田 生太 鶏糞の処理と利用の実態についての調査 渡辺

松原 一彦 *Salmonella pullorum* に対するホロホロ鳥の感受性 渡辺

三宅 考雄 ミヤリサン投与が鶏の移行抗体に及ぼす影響 渡辺

八谷 健治 北海道帯広地区における家畜の糞尿処理に関する実態調査 近江

先野 穰二 鹿児島県日置郡における牛感染症の野外抗体調査 近江

深谷 寿之 福島県東白川郡における牛感染症の野外抗体調査 近江

山口 薫 大腸菌に及ぼす土壌の影響 東

農場だより

「牧場のイメージ」

小林 茂 樹

日本語には、ときどきまぎらわしい言葉がある。「牧場」がその一つだ。牧場は「ボクジョウ」とも「マキバ」とも読める。どちらも間違っていないようだ。しかし「ボクジョウ」と「マキバ」では言葉から受ける印象がかなり異なる。

本学の那須牧場、岩手県にある有名な小岩井牧場、あるいは近隣によく見受けられる大きな酪農家の〇〇牧場は、もちろん「ボクジョウ」で、乳牛、肉牛、羊などを飼っており、牧草や飼料作物などエサ作りもしている。エサ作りのための牧草地を持たない牧場は、あまりないようた。いずれにせよ一般に「ボクジョウ」にはそれ相当の家畜が飼養され、然るべき牛舎や諸施設が備えられている。

一方、「マキバ」は文字通り放牧して家畜に草を食べさせる場所というイメージを受ける。その上に寝そべったり、彼女と一緒に散歩したり、友達数人とバレーボールを弾ませてみたり、そんなことができるようなロマンチックな意味合いも、「マキバ」から受けられる。もちろんその上に牛がのんびり草をはんでいる姿も、浮ぶである

う。しかし、「マキバ」にはうす汚れた牛舎や搾乳室あるいはいかついサイロなどは、一般に含まれないように思われる。このような人の手による建造物は、「マキバ」には不要なのであって、どうしてもこれらを仲間に入れたければ、「ボクジョウ」と呼ぶことになってしまう。こうして考えると、「ボクジョウ」と「マキバ」は区別して使う必要がある。中味が違うからである。ところが、これらを漢字で表わすと同一表現になってしまうから、困ってしまう。日本語のもつ曖昧さの一面である。筆者は仕事で時々軽種馬(サラブレッドなど)牧場へ行くが、これも「ボクジョウ」である。家畜が馬だけだから、乳牛、肉牛とは飼う方も経営内容も全く異なるがやはりこれは「牧場(ボクジョウ)」と称しても、ごく自然と思われる。むしろ牧場の本家かもしれない。採草地や放牧地は、酪農家よりもはるかに広く、その管理も非常に行き届いているからである。

この間埼玉県南部の県道で出遇った車は、筆者の知っている大きな養豚場のトラックであったが、車の脇に口〇牧場と大きく書かれていた。自分の養豚場を称しようかと、本人の勝手かもしれないが、土地や牧草地に深いかわりをもたない加工畜産ともいわれる養豚場が、自ら「牧場」と称するのは間違った言葉使用であるといえる。言葉は「生き物」ともいわれるから、とやかく口をはさむべきものではないかもしれないが、どこかで少し整理してもらえると有難い。

サルデニア島

富士畜産農場

助教授 大谷 忠

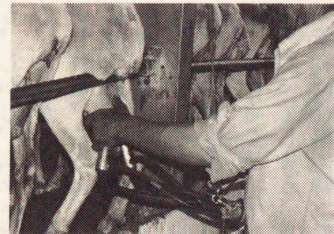
私がヨーロッパの秘境と云われるイタリアの孤島サルデニアを訪問したのはボロニア大学に留学していた1984年の夏である。

イタリアは純然たる農業国であるけれども、畜産を主体とした地域はサルデニア島に代表される。この島は世界的に恐れられているマフィアの本拠地シチリア島よりやや小さいが、我国の四国に匹敵する面積を有しており、ローマから汽車で五十分のチベッタキア港から船で約九時間かかる百八十キロメートル離れた海上に浮んでいる。

当地は、イタリア本土の歴史と、ややおもむきが違いポルトガル、スペインの影響がかなり強く、人々は皆が低く、黒い髪と瞳を持ち、イタリア語を話し、パスタ類やワインをよく飲食することを除けば、決してイタリア人ではないと錯覚するほど愉快な土地である。

私は、畜産で生きるサルデニアの生活、環境を是非見たいとの願いで、島内で最も権威あるサッサリ大学に電話で案内の依頼をしたところ、心よい承諾が得られたので一人で旅をした。ちなみに、サルデニアはイタリアでたびたび起る大規模な誘拐事件の犯人達が伝統的に、居住している土地柄であることを知る人もいよう。

イタリアが日本と同じように火山と地震国でありながら、ここは揺れの経験を一度も感じたことがないと云われるだけに、石灰岩と変成岩（当地は大理石の切出しで有名）を有した浅い表土の土地である。そのため耕作農業が不適当なところから自然草地を有効に利用した綿山羊の放牧が最も盛んである。この綿山羊は肉に供するものではなく、乳を搾るためのものであって、私が視察した一農家では一千頭の綿羊が大規模なミルクングパーラで搾乳をしていた。そしてこれは飲用ではなく、羊乳のチーズを作るためであった。イタリアでは牛乳チーズとならび綿山羊チーズ作りも盛んで、これらの利用は高値で販売されている。（最もこれより嗜好が高く、一般的にも利用されている水牛のモッツアレラチーズはより美味と云われているのだが。）



いずれにしても綿羊が写真でみるように、牛と同様に専用ミルクカーで搾乳されており、私がこの貴重な羊乳チーズのみならず、あらゆる地方で多様に生産されている多くのチーズを見て、我国には畜産食品で氾濫しているといえども、イタリア人が年間五〜六キログラムのチーズを食べていることも考えれば、まだまだ西欧の畜産食品とに大きな差違があるものと感じざるを得なかった。

別海だより

別海町酪農実習

畜産学科二年 高橋 宏之

「お客さん、切符を拝見。」——あ、どうも。何げなく窓から外を見る。外はもう暗闇に覆われ何も見えず、ただ自分の顔が鏡のように車窓に映るだけ……。

二十一時十分。音もなくドアが閉まり、定刻通りに寝台列車夕鶴六号は発車した。一路上野へ——。

カーテンを閉め、ゴロツと仰向けになる。下段を予約しておいたので、意外と天井（と呼んでおこう）との距離もあり楽な感じがする。——もう終わったんだなあ。目を閉じる。ガタッゴトゴトッ；、単調だが、それでいて何となく快い眠気を誘う音の響きを楽しんでいて、その音に誘われるように、一ヶ月間に亘る牧場生活の日々が走馬燈のように瞬に浮かんで消えていった……。

「すみません、空席はあるでしょうか。」

八月二十八日、早朝、お盆ラッシュも過ぎ人もまばらな羽田空港でスカイメイトを利用してようやく僕は立っていた。「ええ、ございます。」——ああ、ほっとした。実は当

日まで、いくら混雑時を避けたといっても、内心は席をとれるかどうか心配でたまらなかったのである。安堵して、僕は八時三十八分羽田を発ち釧路へ向かった。十分五分、釧路空港へ着陸。十一時十分頃、釧路駅行阿寒バスに乗る。バスは一時間に二本程しか来ないのである。十二時丁度に駅に着く。ここで別海町役場へTELする。十三時十四分、二番ホームより急行ノサップ三号に乗り厚床へ。十四時四十六分着。そこで中標津線へ乗り換え、十五時二十八分別海町へ向かう。到着した頃には、もう陽が傾いていた。——どうやら、たどりついたぞ。

改札口を通り、ふと目をやると、暖かな日射しを背に受けて、二人の男性がこちらを見て立っていた。一人は銀ぶちの眼鏡を掛け、いかにも役人らしい格好をしていた。そしてもう一人、——この人だな、俺の親方は——直観的に酪農家と分かる、それでいて案外細身である登博志（のぼる ひろし）氏が立っていたのである。役場で大まかな説明を受け。記念のTシャツを受けとった後登氏の車（まるで要人を乗せるようなブラックのボディを持つ車であった）で最終目的地である氏の牧場へ向かった。場所は別海町中春別、車で十分程の所であった。

登牧場——経営面積六十ヘクタール、牛の数九十五頭、家族構成六人、そしてすでに半年程ここで働いている実習生が一人（一つ年上の彼は将来九州で牧場を経営している父の後を継ぐという）と、都会とはまるで違うこの規模の広さに目を丸くした。

翌日から本格的な仕事が始まった。朝は五時半に起床いそいそと実習服に着換え、まず外にいる牛達を牛舎の中へ入れることから一日の仕事が始まる。サイレージや配合飼料を与えた後、搾乳をする。産乳牛は三十頭。一頭一頭名前が付いている。覚えられない。奥さん達は一頭一頭名を呼びながら乳房を拭きミルクカーをつけていく。何しろ初体験の連続である。親方のリードで仕事を進めていく。搾乳を終え、牛達を舎外へ出し終え、今度は牛舎の掃除である。合間に仔牛達にミルクを与え、再び清掃。ワラを敷き、石灰をまく。目まぐるしい程に次から次へと仕事が続く。九時頃まで働いた後、ようやく朝食。そして十時には牛舎へ。壊れた柵の修繕、ワラ運びをしている間、親方はトラクターに飛び乗り草を刈りに行く。今年の夏は例年になく暑かった。親方は昨夏が冷夏だった為打撃を受けたデントコーンを作らなかつたことを口惜しんでいた。しかし、この広さである。僕がやって来た頃は、家の周辺で牧草刈りをしていたが、一ヶ月もたつと、そのトラクターが来つぷ位にしか見えぬ所まで刈りに行っていたのには大いに驚いた。岡田さん（もう一人の実習生）は、「何しろ、このまわり中が親方の土地なんだ」と言っていた。

昼食をとり、少し休息し、二時に牛舎へ。サイレージ、フスマ、配合飼料を配り終え、岡田さんと共に牛追いで行く。ベエ、ベエ、ベエ…という奇声を上げながら

牛を追うのは格別であった。夕方にちょっとしたテイタイムをとる。菓子はもちろんのこと、とうもろこし、ブドウ、リンゴ、ふかしイモ等、毎日違ったものを奥さんは出してくれた。楽しいだんらんの一時。そしてまた搾乳を行う。モウ、けたたましく一頭の大きなホルスタインが叫ぶ。そう、この牧場は、面積が広いばかりでなく、牛にも凄いものがいたのである。北海道一の美しい外貌をもつ牛——彼女は共進会で賞は一等しか知らない——、又、北海道一乳の出る牛である。よく写真撮影をしたい、雑誌に載せたいので見せて欲しい、という電話やハガキが舞い込んできた。

搾乳を終え、最後の後かたづけがすむと、ようやく一日の仕事が終わる。時計は七時三十分を指していた。

牛舎を出て思い切り伸びをする。空を見上げる。まるでプラネタリウムを見ているかのように空一杯にちりばめられた星、星、星…。きれいだな——。

フツと目を開けカーテンを開ける。車窓から見た空には、もうあの降って来そうな透んだ星達はなく、都会へもどってきたことを示す、赤や黄色のネオンが機械的に点滅していた。夢のような一ヶ月間の生活を胸に抱いた自分に乗せて、列車は上野のホームへ入っていった…。

（一九八四年八月二十八日より一ヶ月間実習）

別海町実習記

畜産学科二年 宮川 幾代

八月八日、厚床駅着。もうほのかに牛の匂いが辺りに漂っているようでした。

別海町役場の方が、友人と私を車に乗せて、役場まで送ってくれました。私と友人は、広大な見知らぬ北海道で、これから一ヶ月間も、これ又見知らぬ方々の牧場で、慣れない畜産実習を行う不安で、二人小さく寄り添って受け入れ農家の方々が迎えに来てくれるのを待っていました。

車の乗り入れる音、そして、受け入れ農家の御主人が柔らかな顔で、入って来られました。友人と私は、互いに「がんばろうね」の言葉を交わす間もなく、いざ牧場へと、向いました。

「私は本当にこれから一ヶ月間、肉体労働に堪え得るかしら？」という不安。

「いいや、やっと来た北海道実習、思う存分働いてみるぞ」というやる気。二つの気持ちの葛藤でまんじりともしないうちに、車は、これからお世話になる、前岡牧場へと、到着しました。それにしても、見渡す限りの牧草地牧草地。

私の意に反して、他に大学生の男の人が二人、既に実習生として来ていました。そして驚いた事にその中の一人は農大生でした。又、もっと驚いた事に、去年と一昨年、二年連続で来てくれた大学生の女の人が、たそうです。仕事の要領をよく把握してくれていたその方が、訳あって今年は来られないそうで、農家の方が大変残念がっていました。なんとこの方も、農大生だそうで、私は、この先輩の得ていた、農大生への信頼を、私の一ヶ月の実習態度で、壊してはいけないと、いつも心に決めて顔も見ぬ先輩を目標にしていました。

さて、翌日より始まった仕事の内容は、私にとって、何もかも初めての経験でした。特に、この前岡牧場は、別海町でも珍しい肉牛農家であった為、搾乳がある訳でもなく、何を手伝うのか、見当もつきませんでした。

生後間もないホルスタインの雄や、フリーマーチンの雌が、トラックで運ばれてきます。それを、ハッチと呼ばれる小さな箱の中に一頭づつ入れて、人工乳と配合飼料を朝夕二回やります。この中で数週間育成した牛を次に、十二〜三頭まとめて育成する牛舎へと移し、体重が増加するにつれて大きな牛舎へと移動させ、最終的に出荷ということになります。この間には、予防注射や、去勢などを行い、牛の健康管理に気を配りながら、ひたすら食べさせ、よい肉牛を生産してゆくのです。えさやりの他の日中の主な仕事は、麦かん・おがくず運び、乾草作り、除糞、水槽洗い等です。前岡牧場では、毎年多

めに乾草をつくり、冬に乾草が足りなくなった牧場へ乾草を分けてあげるのです。そのせいか、乾草はいくら積んでも湧くように有りました。北海道でも珍らしかった今年の夏の暑さの中、二人の男子実習生との乾草運びはどうしても女の体力のなさを痛感させられました。しかし仕事の後の氷水のおいしかったこと、夏の風のさわやかだったことは体にしみついて忘れられない思い出です。又忘れられないのは、仕事中に起こした失敗の数々です。除糞をしている最中牛舎の柱をポッキリ折ってしまったり、熱を出して寝込んだりしました。それでも、前岡家の人々はいつも朗らかに温かく見守ってくれました。

北海道の畜産農家の抱える問題は新酪、旧酪それぞれに有ります。私のお世話になった牧場は旧酪に入るでしょうが、御主人は「新酪は設備に金をかけ過ぎる、あれじゃあいけない、牛舎は雨風をしのげる程度のものでいい、壊れたら、労力を惜しまず自分達の手でこまめに修理をすることだ」と言っていました。私も思わずこっくりとうなずいてしまいました。私は昼間の作業だけで一杯であったことを反省しました。「もっと畜産学を学んでいる者として畜産農家の方達から学ばねばならない事が沢山あったのに」。私は実習後半になってやっと御主人に経営方法を教えていただく位のゆとりができたのでした。けれども私の知識は貧しく少し深い話になるともういけません。教科書上での勉強がいかにたよりないものであるか。又、知識の貧しい事がいかにがゆい

ものであるかを実感した時でもありません。

そうこうしているうちに一ヶ月間は過ぎてしまいました。奥さんが、写真を渡してくれました。実習の合間に他の二人の実習生と長男の方と阿寒湖や屈斜路湖、硫黄山に行った時の楽しい記念写真でした。他の二人の実習生は既に帰ってしまっていて、一人残っていた私にその写真の笑顔はともしんみりとしたものに感じられました。

「ああ、私ももう帰る時が来たんだなあ。」
前岡牧場の方々にとって私は、さぞ足手まといな存在であったことでしょう。けれども自分自身では精一杯やった、農大生の面子が守れたかどうかは別としても、妙にふんわりとした良い気持ちが私の心と体をいっぱいにしていました。

今私は、実習を終えて思う事一つ。「別海町の実習へ行ってよかった。実習に行った者にしか得られない素晴らしい夏を経験できたのだから」と。

別海実習を終えて

二年 藤城 小百合

私は夏休みに、ヶ月間の実習をしました。場所は北海道の別海町です。根室半島の近くの大きな町で、人口より牛の方が10倍いるという酪農地帯でした。

羽田空港から最終便の飛行機にのり、千歳空港から寝台車で釧路まで、そして一両の汽車で厚床までそこから目的地の別海町駅まで足かけ 日の旅から始まったのです。こう書くともスムーズに行っているようですが、片田舎ですので、待ち時間が3時間あったりでなかなかの旅でした。

この長旅を私は親友と2人で行きました。2人でかわした話はほとんどが、これからおこることについてです。役場でわかれて、不安いっぱい私に、ヶ月お世話になる小西牧場についてです。

その家族構成はおじいさん、おばあさん、若い御主人、奥さん(この方も若い)1才の坊や、そして生まれただばかりの女の子です。私の他に宮崎出身東京の大学に通っている男の人がいました。彼は私より1週間早く来たそうです。

新酪といわれる地帯で隣の家まで左右とも3〜5kmは

離れていたと思いますが、とても高い真空式のタワーサイロが建っているのが目安がきました。

牛の数は育成牛が30頭、搾乳牛が60頭、その他に乾乳牛が40頭ほどいました。農地の広さは62haあり、東京生まれの東京育ちの私には広すぎる気もしましたが、御主人はまだ狭いので広げるといふスケールの大きな家でした。日の仕事は除ふんで始まり、搾乳、除ふん、そして放牧、清掃、そして飼料の準備、そこで昼休みで、夕方の搾乳前に草むしりや、サイレージ作り、畑作り、などをやって、それから搾乳の準備、搾乳して、清掃に除ふんです。

こうやって書きあげる分には、とても楽ですが、ヶ月の間やっている途中は毎日体を慣しながら覚えるのがやっとなで、言われるままに動いていただけでした。

その他に私は、食事の仕たく、片づけがあり、更に家の中の仕事もありました。生まれて1週間の女の子に1才の男の子がいるのでおしめなど替えたり、子守りもありました。実習する人の中では、家事をやりたくないという人もいたそうですが、私は自信を持ってできる仕事がありました。時にはいやでたまらなかつたのですが、一番つらかつた事は、畑仕事の中の雑草とりと、虫に刺されることでした。畑の草むしりはとってとってもあるし、見渡す限りが畑で自分を励し、厚木の実習を思いだしてやりました。涙が出そうになつてあわてて目を

こすったことも今では思い出です。

虫に刺されるといのは私だけでしたが、牛につくアブがすきを見て刺すし、別海にはいないといわれる蚊までが私を攻撃してくるのです。大げさに聞こえるでしょうが、全身に60ヶ所以上の虫さされ跡は今でも見せられる程です。外仕事の時は、防虫のために長袖長ズボンのつなぎにタオルを首にまき、軍手という完全装備でやっています。特に昨年の夏は北海道でも珍しく炎天下が続き、アブが大発生したのです。毎日毎日何ヶ所かふえていく跡を見て、かゆいし、いたいし、でもいやだといえなくて……

楽しい事かというと、今から考えるとすべて苦しい事も、楽しい思い出になっていることに気がつきました。1ヶ月もするとすべての仕事が順調にできるようになっていたし、更にするいことでは、仕事のあいまに体を休めることを覚えました。

実習を始めてからちょうど10日めに別海町の町役場が実習生の交流会を開いて下さいました。他に来ている実習生が100人程集まり、野付半島に観光し、コミニュティセンターという所でジンスカンパーティをしていたのでした。体が疲れてしょうがなくて、つらいと思いだめた時期だったので友だちに会えることや1日休日ももらえたことがこんな嬉しい日は初めてのことであった。今でも鮮明に残っています。友だちと観光する間も惜しい程に互いの仕事のことなど話し、又、全くちがう所

から来た人たちと友だちになったりで大忙しの1日でした。北方領土の見える北の海でお弁当を食べて、散歩してすごしました。海はすでに晩秋の顔をして、その年は泳げなかったと少しだけ寂しくなったのです。

他の人の仕事を聞くと自分が大してつらく思えなくなり、残りの20日間をがんばろうと決意も新たに小西牧場に戻りました。

私が1ヶ月に体験したことは、私の生きていく上でもとっても貴重でかけがえのないものになりました。これからどんなにつらいことや壁にあたって絶対乗り越えられない自信ともなりました。実習していた時は早く時が過ぎないかと数えていたのですが。

私が1ヶ月を過すためにもいろいろな人に助けられました。富土や厚木の農場で学んだこともとても役に立ちました。今から考えると、小西の人たちも何も知らない私に辛抱して下さいましたし、ずい分と迷惑をかけたことだと思えます。たった1ヶ月ではあるけど、家族として受け入れてくれてとてもうれしかったです。

私はいろいろな人に受けた恩や学んだことをしっかり心にとめておきたいと思っています。又、実習の素晴らしさを他の人にも伝えたいとも思います。町役場の人の「農大生はよく働くので大歓迎です。」という言葉とともに……

雪の北海道、そして可愛がった牛たちは今どうしているのでしょうか。

集う学友

緑のはっぴと茂原寮歌に乾杯！

畜産学科33期 都 築 延 吉

「ふじみの」の発行に際し、原稿依頼を頂きありがとうございます。

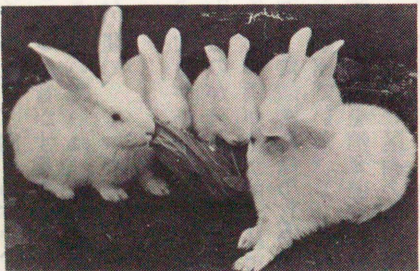
社会人となってから早くも一年が過ぎようとしているいろんな事があった一年間ではあったが、自分の時間があまり持てなかった事が心残りである。こんなことを考えること自体まだ仕事にも慣れていないのかもしれない。自分にとっては、学生時代の生活がなんとも言えず田舎くさくて、男くさくて、貧しくて、素朴で、豪快で、形のないドロドロとしたものであり、かと言ってうわついた考えは持っておらず、恋愛以外は、人間がのびのびと生活できるすべての環境が揃っていたような気がする。それだけに、普通の大学を卒業した人たちが型にはまった人たちの中で仕事をするのは非常に疲れるものである。仕事が忙しいとかつらいということではない。

大学時代の経験した、いろいろなボロボロの生活態形は、自分にとっては大きな財産だと思ふ。友はもちろん

のこと、緑のはっぴや茂原寮歌は決してセピア色にはしたくない。いつも新誓な空気を与え、自然光の中で管理してゆきたい。だから仕事に対しても、自分が自分であり、なおかつ向上の心を持ってやってみてほしい。

仕事の時間が終ると、ほとんど毎日のように飲みに行く。普通の大学を卒業した人や型にはまった人間と飲みに行く。そんな時、ふと、グラスを傾けながら思う。

「農大畜産学科と緑のはっぴと茂原寮歌に乾杯！」。



都会のねずみ考

三年 古田 多美

どうしよう、今は、気分がのらないので、作文などし
たくない。まして依頼人は、去年、やはり私が書いた文
章を、くさい文章だったと言うので、なおさらの事、書
く気が無くなってしまっている。でも今日中、という事
で、また、くさい文章を書かなくてはならないみたい。
私は最近、農大に入って良かったと思う。私は、環境
に流されやすいから、もし、他の女子大などに入ってい
れば、それなりの女子大生になっていたと思う。

農大生でいると、自分に無理なく生きていられそう。
私は、結果が実に成る成らないの場合は別として、自分
の感じに合わない所に居るのが、あまり好きじゃない。
前に書いた時、北海道の実習の話を書いた。私は、2
年の夏にも、北海道の実習へ行った。私は、ああゆう所
が好きな様な気がする。

仕事のあまり無い日に、庖丁とカゴを持たされ、私は
キノコを採りにやらされた。谷川の深く切れ込んで
斜面の、ジメジメした所に、キノコは生えていて、それ
をひとつひとつ採っていく、私は、谷に落ちた。日が暮
れる頃には、カゴを10コ位、キノコで一杯にした。

だと、おばさんに言ったら、おばさんは、バスのおじさ
んが来るたび、チョコレートを、たくさん買ってくれた。
ある日は、ワゴン車に乗ったおじさんが来た。お餅やさ
んで、またまた、おばさんは私に、大福をたくさん買っ
てくれた。美味しかった。

そこに住む人、あるいは私の周囲の人は、単なる都会
のねずみなだけだ、と言うかもしれないけど、自分でも
そうかもしれない、と思う事もあるけれど、私はそこで
考える。

きれいな物をきれいと思ったり、美味しい物を美味し
いと思ったり、すごいなと思ったり、それは、感動す
ることを忘れてるより、すごい事と思う。おおげさに
わざわざ感じる必要は無いのであり、自分の心の中に浮
かぶ想いを大切にするか、しないか、ただそれだけの事
けれども、最近はその少ないと思う。

私に、それを教えてくれた人は、こう言った。それは
テールブルクスの花の柄とか、物の色とかでもいいんだ
よ。私はその時、それが分からなかった。けれども、今
は、分かる気がする。

多分、また、依頼人は、この文を読んで、くさい文だ
と思うだろうし、何を今さら、と笑うと思う。それで当
り前、それでいいと思う。人に強いたり、分かってもら
おうとか考えない。

私だって皆と同じ大学生。町へ遊びに行ったり、飲ん
だり、いろいろ楽しんでる。だけど、それがそのまま

また、連う日には、シイタケを採りにやらされた。昼
頃になると、雨が降り出して、それでも小雨の中で、シ
イタケを採り続けていたら、向うの方で、コッコ音
がした。ずっと、コッコ音がするので、その方を見ると
アカゲラが、木をつついていて。頭と尻の羽が赤く、そ
れが、白と黒の羽の間で、くっきりと浮き上がり、きれ
いだと思った。

急に雨が降って来た日があった。空が広く見わたすこ
とが出来、雨雲が来るのが分かった。それから、雨が去
っていくのも分かった。雨が上がって仕事に出たら、地
面から、向うの地面まで（これは少し誇張ですが、そん
な気がしたので）虹が出ていた。

夜、寝ようと思つて電気を消すと、窓の外に牛が居た。
一頭、二頭……。その夜、一区画の牛が脱走し、20頭皆
隣の家の牧草地まで逃げてしまった。二時間程かけて、
牛舎に、皆もどした。おかげで、その一家と私は、風邪
をひいた。

回覧板は、私が車で、隣の家まで持っていった。買
い物は、買い出した。食事は、キノコや川魚や、そ
の家の牛肉などで、買ってきてどうのこうのという料理
では無かった。私が、カレーやピラフを作ると、他のパ
イトの男の子は、いつも喜んでた。もちろん、私も、
デニーズや、ロイヤルホストの料理を思い浮べた日もあ
った。週に三日、バスで物売りにくる。野菜から魚か
ら肉から：色々あった。私は一度、チョコレートが好き

ああ楽しかった、と過ぎる前に、もうひとつ、何か手に
入れられる気がする。

この、今の環境を気に入っている。大学に入ってから
もう、何人の他の有名大学の人にばかにされたかわから
ないけれど、私は、負け惜しみじゃなくて、ちっとも平
気。

もう大学生活もあと一年、私は、この三年、良かった
と思つている。よく分らないけれど、皆も、それぞれ
のやり方で、無駄にしてほしくないと思う。本当。

私は、あと一年、また何か得たいと思う。いえ、これ
からだって、ずっと、たとえ、ままならぬ社会に入っ
ても、見失わずにいたいと思う。

ああ、なんだか、随分、かつこの良い事書いてしまっ
たけど、たまにはいいかな。こんなくさい話、めったに
人前ではしないもの。依頼人さん、ごめんね。

“友”

I LOVE NODAI

畜産学科三年 肉利用学研究室

赤井秀次

二年にやあ助

農大入学後、早4年目である。(短大2年間、聴講生1年間、学部畜産学科3年次に編入学して1年間)今年は編入学して2年目、畜産学科の4年次である。この4年間を振り返って見て私が得た大切なものは友である。農大は、北は北海道から南は沖縄県に至る全国各地からまた、海外からも様々な学生が集まっており、言葉、習慣などの異なる人物と知り合えるのは興味深い事である。大学に入学するまでは、和歌山県という狭い地域での事しか良くわからなかった私にとっては、他道府県の人との話が新鮮で、知識を広めるものであった。また知り合えた友は、困っている時には助けてくれたり、何かある度に飲んで騒いだり、遊んだりする。有難いものであり、楽しいものである。また、これらの様々な人々と知り合えた事が、私の視野を広め、知識を増すと共に、生活の助けとなった。この大学時代の経験は、私の財産であり、これからも大切にしていきたいと思う。また、私は現在、畜産学科、肉利用学研究室に入室し、籍を置いている。

農大に入って二年経った。何をしたか？ うーん色々と手をつけたような気がする。

例えばどんな？ スポーツ大会にも出たし、収穫祭で舞台に出たり、歌ったり、衣裳を作ったり、あとは——体育祭にも出たな。

他には？ そうね——アルバイトもやったし、旅行もした。それから——そうそう、大学に入って初めて、友だちとハデな言い争いをした。あとは——デートもしたし、その人振っちゃったんだけどね。失恋もしたし！。何が得られたか？ 仲間、いい友だち。それから、何でもやろうと決めたら、途中であきらめないって事。それと、自分に正直でいるってことが、どんなに大切かっていう事。あとは、貧乏暇なし、を身にしてみ感じたことかな。

ここまで書いて、勉強のことに全く触れていないことに気が付いた。大学に入って二年、知識は拡大されたのだろうか？ 疑問だ。農大に入るのが夢だった。畜産学を学ぶのが夢だった。それなのに——。しかし、私は勉

強する。畜産が大好きだから、農場で泥まみれ、糞まみれになって作業するのが好きだから。実験するのが好きだから。好きこそもの上手なれ、なのだ。知識はおのずとついてくる、と信じよう。

学生生活あと二年、がんばるゾ。スポーツ大会、がんばるゾ。収穫祭、がんばるゾ。勉強もがんばるゾ。あとはやっぱり——“遊び”です。真剣に生きてます、あ・た・し。

仕合せについて

一年塚本 涉

「仕」と「合せ」に分けて考えると「仕」動詞の「する」の連用形で、仕入、仕送りという言葉から考えると行動性・断続性があり、という動作をするかという事ではなく、行動のあとのことを目的としている。

そして、「合せ」をつけてみると、何かの目的のために合わせるということになる。

すなわち、ここでする仕事は、動機から目的にかかる中間手段である仕掛けとなり、これが仕合せの原因である。

仕合せは、何か目的をもってする行為において、その

行動が、終わった後に外的な力が、すなわち、偶然が加わって出てくる。

よきしあわせ、あしきしあわせという結果である。

仕合せを望むとは、よき仕合せを望むことであり、仕合せになるためには、その結果をよしとすることである。

諦め、真理を悟ることが必要である。最終的には、仕合せは、死ぬ時のものであり、明日の仕合せのための仕掛けである。

命について

命には、生の命と死の命とがある。生というのは、命の生の状態である。

女にとって、社会的に、価値があるものは命である。女は、産む性だから、生きる事は尊く、何物にもかえがたいものである。

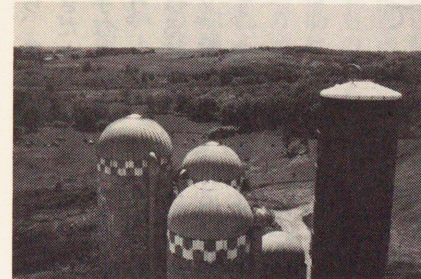
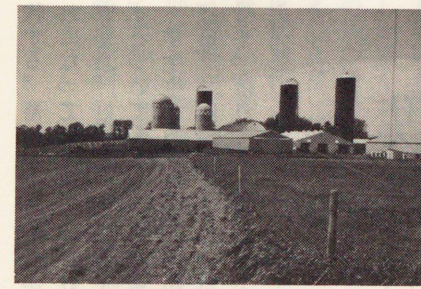
しかし、男にとって、社会的に価値があるものは、名誉である。生き残るものは、肉体ではなく形である。

生命が、命ではなく、生・死を含んだ永遠のもの(超越した姿)が命なのである。

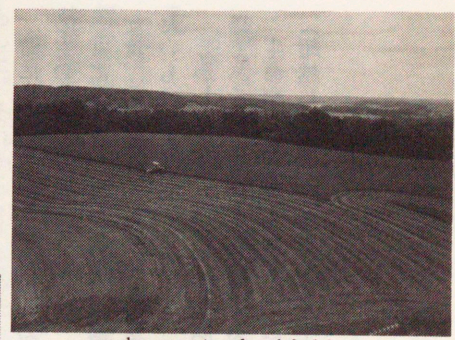
派米農業実習報告

畜産学科四年開 澤 浩 義

昭和五十九年三月八日。田舎者の自分は初めて飛行機に乗り、国際農友後援会（I.F.F.A.）のプログラムによる派米農業実習のため、アメリカ合衆国に向かいました。最初にびっくりしたのは、サンフランシスコから実習地まで、グレイハウンドのバスで三日かかったことです。自分が一年間お世話になったのは、酪農州とも呼ばれるウイスコンシン州の北西部、グレンウッドシティーにあるミステイメドウズファームという牧場です。



Misty Meadows Farm, Wisconsin



harvest of alfalfa



Calf hutches

ここには、六つのバイン、五基のスティールサイロ、五基のプロックサイロ、二棟のシェッドの他、五台のトラクター、プラウ、ハロー、コンプランター、ウインドローク、ハーベスター、コンバイン、マニユアプレッダー、ワゴンなどの大型機械がそろっています

牛は、フリースタール方式で管理されていて搾乳牛が約百五十頭、育成牛、去勢雄牛、子牛があわせて約二百頭います。
畑は、約八百エーカー（三百二十四ヘクタール）あり、アルファルファとコーンが半分ずつで、ほとんど飼料を自給しています。



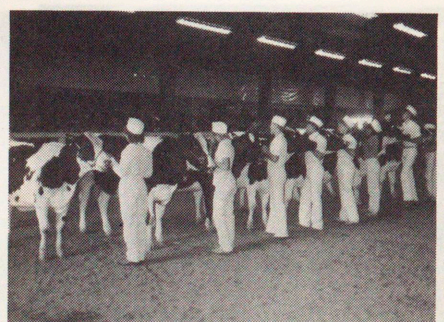
Host Family

この牧場は、兄弟が企業的に経営していて、兄のデイビッド氏は、主に経営と牛の管理、弟のジョン氏は、主に畑と機械を担当していて、この協力がとてもうまくいっています。しかし、二人とも牧場以外の仕事が多く、牛群検定組合、人工授精所、教育委員会、4

Hクラブの役員、種子会社の販売代理、機械修理の他、大型トレーラーを運転して、おがくずを輸送したりしているのです。非常に多忙です。それで、普通の家族経営の牧場とは大変異なっていて、一般貨理などは、ほとんど二人のワーカーと実習生の自分がやります。



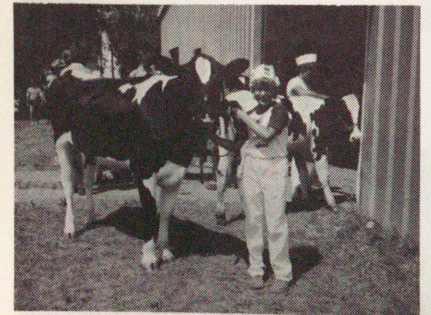
Dance Party of High School



St. Croix County Fair

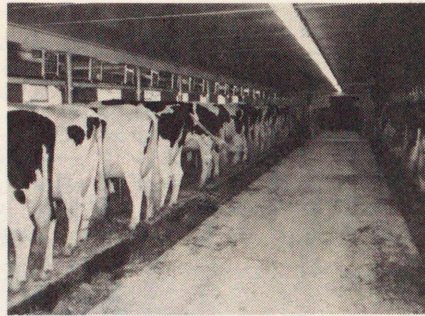
そのため、できるだけ仕事が能率的にできるように、工夫されています。
畑仕事は、もちろん大型機械でやりますが、なにしろ広いので、整地するまで、播種、収穫にそれぞれ約一ヶ月かかり、アルファルファは一番、二番、三番草を続けて収穫します。

粗飼料は、すべてヘイレージとサイレージで、サイロからアンローダーとベルトフィーダーにより、ボタン操作で給与します。
濃厚飼料は、高水分コーンとアマニ油粕で、コンピューターにより、個体別にプログラムされた量を、自動的に給与します。

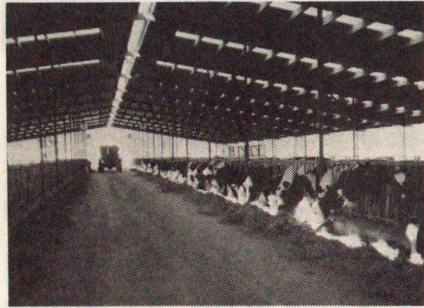


Holly and heifer

その上、人工授精所、家畜市場、WDHICのセンター、いくつかの牧場などの他、牛のセール、カウンティフェア、ステイトフェア、そしてワールドデイルリーエキスポまで見ることができ、また人工授精師講習会も受けられたことは、本当に良かったです。



Pinehurst Farms, Wisconsin



Sleepy Hollow Dairy Farm, California

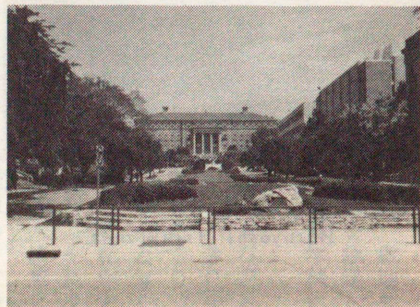


Milk testing by Wisconsin Dairy Herd

そして、農業におけるアメリカ合衆国農務省(USDA)、州の農務局、農業改良普及所、大学、研究所などの各団体の密接な関係と協力は、すばらしいと思えました。またセミナー中は毎日、みんなで話し合ったり、遊んだり、夜遅くまで飲んでさわいだりました。

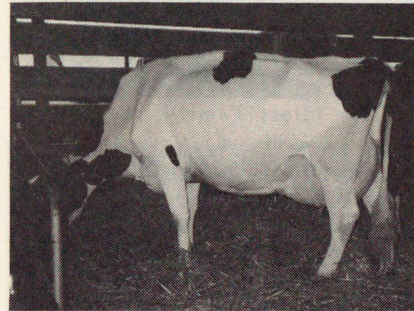
また、実習中に何回も、色々なパーティー、学校の行事や試合、遊びに行かせてもらいました。しかしいつも夜遅くなり、朝起きるのが大変で苦労しました。特に、ダンスパーティー、アメリカンフットボール、バスケットボール、タイヤの川下りは楽しかったです。

中西部の実習生が集まるセミナーは、夏がウイスコンシン州立大学マジソンで、秋がアイオワ州とイリノイ州で、一週間ずつあり、農場、研究所、観光地などを見学したり、講義を受けたりしました。特に自分は、牛群検定事業(DHI)の組織活動、データ処理など、

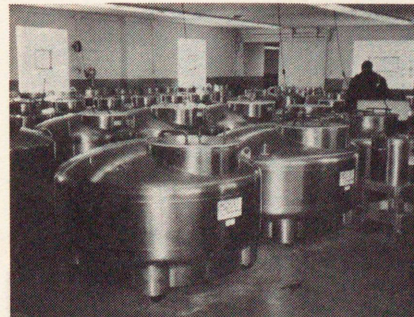


University of Wisconsin, Madison

コーンの播種前と収穫後に、集中的に散布します。しかし、機械がある分、それ以外に細かい仕事ができるので、一概に楽になるとはいえません。むしろ、いくつかの仕事を掛け持ちするので忙しいほどです。

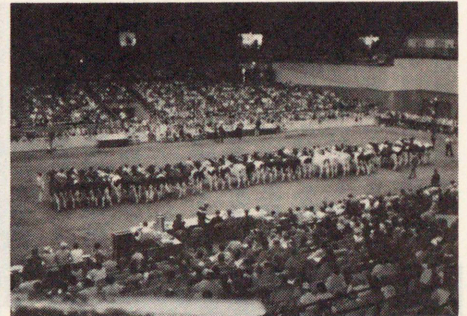


Brookview Tony Charity (EX-97), Hanover Hill Holsteins, Canada Grand Champion of the Central National Holstein Show



Tri-State Breeders Cooperative

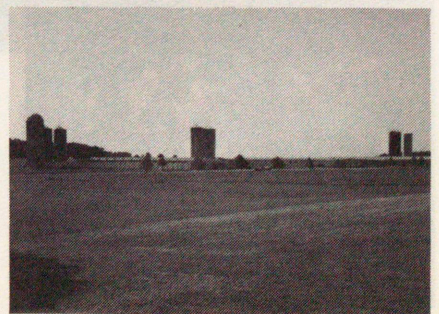
ラーの洗浄、子牛のミルクやりの手伝いが終わると八時、夕食は自炊で、十一時頃に寝ます。牛舎の仕事は、ほとんど二人でできますが、畑仕事の忙しい時などは、搾乳以外を一人でやることもあります。その他ワーカーの手伝いや、細かい仕事がたくさんあります。



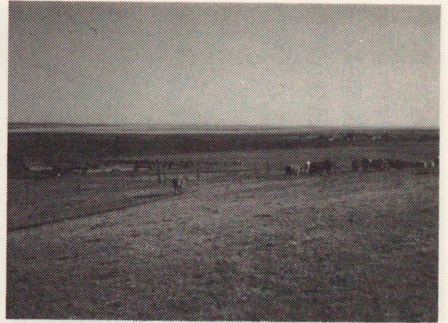
World Dairy Expo '84, Madison

搾乳は、六頭複列のヘリングボーン型のミルクングパーラーで行い、乳量はミルクメーターで自動的に計量し、コンピュータに記録されます。成牛バインのうち、すのこ式床以外のものは、糞尿をボブキャットでクリーンして、マニユアタンクに溜め、

自分の一日の仕事は、四時半に起床、五時から搾乳、飼料給与、子牛のミルクやりの手伝いが終わって八時から朝食と休憩、九時からパーラーの洗浄、バインの掃除、子牛の管理など、一時から昼食と休憩、二時から子牛の飼料給与など、四時から搾乳、飼料給与、パ



American Breeders Service



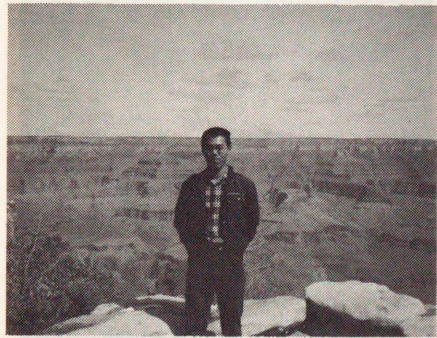
Sears Ranch, Nanton Canada

最後の個人旅行では、農大生たちでカナダを一週間回り、カナディアンロッキーの美しさに感激しました。また、ナントンではホームステイさせていただいたり、バンクーバーでは農大OBの農場を見学させてもらったり、パーティーを開いてもらったり、大変親切にし

てもらいました。その後はひとりで一週間、カリフォルニアの牧場、デイズニールランド、シーワールド、メキシコのテイファナ、そしてヨセミテやグランドキャニオン国立公園などをバスで回り、改めてアメリカ合衆国の広さと、自然の雄大さに感動しました。



Banff National Park, Canada



Grand Canyon National Park, Arizona
Good luck to you.
Hiroyoshi Hiraki zawa

昭和六十年四月六日。一年間の派米農業実習が、いつの間にか期限切れになってしまい、さっき始まったばかりだというのに、日本に帰ることになりました。田舎者の自分が、アメリカ合衆国に一年間も暮らしたことは、本当に刺激的でした。ある一戸の酪農家でしたが、そこでアメリカ人といっしょに生活し、働き、遊びながら、これまでよりも少しは一日を大切に、真剣に生きられたように思います。苦しいことや悩んだこと、楽しいことや感動したことがありましたが、たくさん貴重な経験をすることができました。これからは、はっきりとは言えませんが、もう少し広い目を持ち、タフに生きてみたいと思います。

サークルレポート

意地

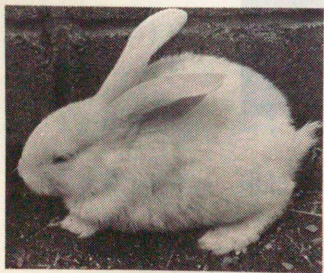
野生動物研究会会長 佐藤 昌 巳

野生動物研究会は、畜産学科の先輩方がつくったサークルで、現在も半数以上を畜産の学生が占めている。その動物に対する情熱や執着は他学科の学生を圧倒し、野動物内部で常に影響を与えてきた。私は醸造学科の学生であるが、大学の先輩と言えば畜産学科の先輩であり、あらゆる面において影響を受けた。農業のあり方をまじめに考えている人、特定の動物が好きでその動物のことで卒論を書いた人、下宿には爬虫類を飼っていた人等々、実に個性的であった。そんな先輩方を見て思うことは、どの先輩も真剣でそして意地を張っていたということである。

意地を張るということは、何だか悪いことの様に思われがちだが、物事を成し遂げるには絶対に必要なことだと思う。畜産学科の学生としての意地、先輩としての意地、自分が志したことに對する意地。こういった意地があったからこそ、先輩方は自分の存在というものを我々後輩に知らしめることができたのではないだろうか。意

地を張ることが行動の源動力となり、成果をうみ、かつ、自分の責任を果たすことへとつながる。また、意地を張れる人というのは、自分のおかれている立場を認識し、その責任を果たし得る人だと思ふ。かつて畜産学科には、そんな人間がたくさんいた。

私もまだ学生である以上、最近の学生は云々などと言いたくないが、近頃意地を張れる人の数がめっきり少なくなってしまう気がする。体裁を気にするあまり、意地を張ることを良しとせず、責任感を感じること無く、挙げ句の果てに何で俺ばかりとか、どうして私がとくる。誰だつてつらいことはしたくないけども、それを意地を張ってつらいことなどこれっぽっちも他人に感じさせずにやり遂げることの満足感を知って欲しい。これから畜産学科を背負っていくみなさん、どうか意地を張って下さい。そして、畜産学科をより一層盛り上げましょう。



畜友会だより

昭和60年度畜友会行事報告

- 1月10日 昭和60年度畜友会活動開始
- 1月21日 卒業生送別会
- 3月20日 卒業記念品贈呈
- 4月16日 新入生学外オリエンテーションにおいて畜友会説明
～17日
- 4月18日 新入生歓迎会（生協グリーン食堂にて）
- 5月26日 第15回畜産学科ソフトボール大会
- 6月～7月 夏期個人農場実習紹介及びリスト作成
- 6月 5日 第15回スポーツ大会参加
～17日
- 6月21日 第15回スポーツ大会畜産学科慰労会
- 8月 6日 第93回収穫祭説明会（厚木農場にて）
- 10月 8日 第93回収穫祭畜産学科統一本部発足及び本部開き
（生協食堂にて）
- 10月 31日 } 第93回収穫祭参加
11月 4日 }
- 11月24日 第16回畜産学科ソフトボール大会
- 12月12日 昭和60年度畜友会定期総会

牛飼の会の紹介

畜産学科の皆さん、「牛飼の会」って御存知ですか。名前の通りとまではいきませんが、牛が好き、動物が好き、スポーツが好き、遊び好きな人等の集まりです。私達の会の一番の特徴というと、ほのぼのとした雰囲気だと思います。

さて、肝心の活動ですが、週一回の定例会を初めとして、夏合宿、収穫祭での活躍があります。夏合宿は2泊から3泊の短いものです。しかし、牧場見学の他にも、テニス、海水浴なども取り入れ、会員の親睦を深めます。メインの収穫祭ですが、なんとといってもミニチュア牧場でしょう。

あと、牛について皆さんに知っていただきたいことなどを展示します。以上の同好会としての活動だけでなく個人的にも実習へ行くなど、燃えている人もいます。BOY&GIRLS、と・に・か・く、君の力が欲しい。牛飼の会へ是非一度来て下さい。



第93回 収穫祭畜産学科会計報告

収入の部			
畜友会よりの援助金		700,000	
前夜祭特別企画本部よりの援助金		67,650	
体育祭本部よりの援助金		49,000	
収穫祭本部より北門への援助金		200,000	
宣伝隊本部よりの援助金		45,000	
文化学術展本部より家畜苑への援助金		250,000	
計		1,311,650	

支出の部			
	予算	援助金	決算
総務費	290,000	0	265,502
北門	0	200,000	227,201
前夜特企	150,000	67,650	198,632
体育祭	100,000	49,000	134,472
宣伝ストーム	40,000	45,000	85,195
文化展	40,000	0	40,000
家畜苑	80,000	250,000	350,701
計	700,000	611,650	1,301,703

(収入総額) 1,311,650 - (支出総額) 1,301,703 = 9,947 (黒字)

上記相違ない事を認めます。

会計監査委員 4年 加来 功 3年 富田 恭正
2年 花田 伸一 1年 深津 弘行

昭和60年度 畜友会会計報告

収入の部			
	予算(円)	決算(円)	
前年度繰越金	118,837	118,837	0
会費収入			
新生(8,000×170)	1,360,000	1,176,000	△184,000
編入生(4,000×5)	20,000	(147×8,000) 0	△20,000
未納会費(59×8,000+ +3×4,000+4×6,000)	508,000	56,000	△458,000
(7×8,000)			
利息	5,000	4,925	△75
計	2,011,837	1,355,762	△662,075

支出の部			
	予算(円)	決算(円)	
卒業生送別会費	55,000	56,400	△1,400
卒業生記念会費	100,000	72,000	28,000
新生歓迎会費	130,000	61,100	68,900
「ふじみの」第24号印刷費	420,000	0	420,000
ソフトボール大会費	100,000	37,070	62,930
講演会費	20,000	0	20,000
夏期実習農場紹介費	10,000	1,000	19,000
収穫祭説明会費	25,000	20,000	5,000
収穫祭援助費	500,000	700,000	△200,000
慰労会援助費	50,000	79,601	△29,601
畜友会研修旅行費	100,000	0	100,000
総務費	70,000	133,226	△63,226
予備費	431,837	0	431,837
計	2,011,837	1,160,397	838,840

(収入総額) 1,355,762 - (支出総額) 1,160,397 = (次期繰越金) 195,365

上記相違ない事を認めます。

会計監査委員 4年 加来 功 3年 富田 恭正
2年 花田 伸一 1年 深津 弘行

第93回収穫祭畜産学科 統一本部宣伝隊々長を終えて

山田 隆 明

自分にとって3回目の収穫祭が終った。今回の収穫祭は畜産学科統一本部宣伝隊々長という、前回の加来先輩の役を引きついでのものであった。今思えばこんな大変な役目を、自分ごときがよく出来たものだと思います。統一委員長の中山をはじめ古橋、家畜苑のみんなも、北門を作ったみんなども自分達の作業を始める前に手伝ってくれました。また諸先輩のみなさんも、元後輩(?)の西川藤城さん、福崎さんもいろいろ手伝ってくれました。収穫祭の行事で最初に行われるのが宣伝隊の行事で後期の講義が始まる前から、準備に入ります。10月に入るとすぐに、みこしを作り始めます。都内宣伝パレードが10月20日にあるので20日間のみこしを作り上げなければならなかったので大変でした。絶対にみんなどの協力がなければ出来上らなかつたと思います。その間に各学科本部開きや宣伝隊会議や宣伝パレードに使用する4トントラックを借りる手配や、もちろん講義もあります。なんとか20日の都内宣伝パレードまでにみこしが完成し、本

部宣伝隊、先生方、拓殖学科と共に大学を出て行きました。今回の都内宣伝パレードは前回までとは違い、人間はバスで移動しました。そのせいかなかなか人が集まらず、本部に言っておいた人数が集まりませんでした。畜産学科統一本部宣伝隊々長の自分としては、感謝の気持ちでいっぱいでした。宣パレも無事終り、我々は経堂パレードへの準備とみこしの補修にかかりました。経堂パレードは夕方からなので、みこしの目を光る様にしたのと羽の足りない部分の付け足しでした。あわただしい一週間が過ぎ去り、経堂パレードの当日を迎えたのですが、残念ながら自分は、人数の関係で警備の方に回ってしまいました。



最後に一言、みこし作りを手伝ってくれた人、都内宣伝パレード経堂パレード等に参加してくれた人々、真に有難うございました。みなさんの御協力、御参加があればこそ、自分ごとき男でも宣伝隊々長をつとめ、これを成功させる事が出来たのですから。

「THROUGH THE BROKEN HEART」

1985年秋
10月31日～11月123日

東京農業大学
第九十三回収穫祭に
金色に輝くステージ上
苦痛で這いつくばり歌い続ける彼がいた。と
人々は、
ささやきあつた……

次の日もまた
TV局の
カメラマンたちが
放物線上の光を
フレーム内にとらえ
いっせいに
レンズをふき始める
異様な光景が
出現した。

この日、伝説が語り始めた。

しかし、畜産学科の成績は、玉砕。
そう、
いぜん駆け続ける彼の実像を伝説で語るには、
まだ早過ぎる。

1986年秋、第九十四回収穫祭。
その時こそ、
愛が、
正義が、
そして真実がみえ始めるだろう……。

第九十三回収穫祭
畜産学科統一本部
前夜祭・特別企画委員長 古橋 一人

家畜苑

畜産学科三年 室越 孝

収穫祭一週間前、我々家畜苑のメンバー達は、収穫祭に向けて仕事を始めた。まず4号館の前の車と自転車がなくなくなった。かわりに鉄のパイプがころがっていた。

「これからしばらくは夜おそくなるな」

などという声は俺の頭の中で響いた。

「そういえばしばらく風呂に入ってねえな」
俺は根っからの無精者、普段でさえ風呂に行かない。その上、これからは鉄パイプとの格闘、10月下旬だって汗は出る、先が思いやられた。社長（家畜苑委員長）の

「そんではやろう」

の声で仕事を始めた。手に軍手をはめ、普段持ちなれてる角スコにかわって工具をもった。がふと思った。社長から設計図などというものを見せられてはいない。俺だけでなくみんながみんなそうであった。設計図は社長の頭の中だけ、つまるところ現場合せであった。社長の指示だけではなくみんなの意見によって鉄パイプが組まれた。

「4mのパイプもって来い」

「いや3mで平気だよ」

そう思ったのは俺だけではなかったはず。水牛が悠然とこつちを見ている。門があいた。友人の後ろに毅然とした態度でついてくる。角が異常にでかい。つつかれたらたまらない。がすんなりとトラックに乗った。ほっとした

「あと鶏だよな」

友人が言った。鶏たちはおとなしかった。七面鶏もシャモも、が、ガチョウはちがった。一匹をつかまえたまではよかったが、他のガチョウが攻撃してくるのではないか。つつかれるとかなりいたかった。こうして午前分の家畜を乗せ農場を後にした。

用賀インターを降り環八に出た。いきなり信号につかまった。水牛はトラックの上から頭を出し、ガチョウは大声で鳴いていた。回りの車の中の人の視線が熱かった。牛後は農場から豚、イノブタ、飼料などをつんできた。水牛とちがってこのときは視線などというものは感じなかった。社長も富士から帰ってきて牛をすでに家畜苑の中に入れていた。豚も囲いの中に入れて、家畜は完成した。今日からはテントへ泊り込みである。ふと思った。

「風呂に行こう」

俺はもうしばらく風呂などというものに無縁であった。久しぶりに風呂というものに入った。風呂から出たときには体が軽かったし顔が白くなっていて色男になっていた。

収穫祭初日、雨にたたられて人の入りは思わしくなかった。2日目からはそれがうその様に晴れ上がり、最終

などという声で順調にすべり出した。初日はみんなが慣れだしたことや工具不足も手伝ってか、かなりの時間がかった。

2日目からは工具数も増え、仕事もはかどった。が、しかしもとから設計図なし、どこにどの家畜が入るかさえわからない。囲いができたが細かい部分は、まだまだでき上がらない。収穫祭までにでき上がるかどうかは不安であった。夜になると寒さも増し、ライトの灯りがとどかない場所での作業も多かった。友人たちや先輩方の差し入れて一服するのが楽しみになった。

このような具合で収穫祭の前日となった。普通なら準備OKのはずだが、細い部分がまだ少し残っていた。が、とりあえずこの日は家畜を借りに農場へ行かなければいけない。社長をはじめとする3人は富士農場へ、俺を含め友人と3人で厚木へ行くことになっていた。友人がもってきたトラックには光り輝く文字がペイントされていた。

「打戻種豚組合」

なんて素敵なお響きであろう。社長の方のトラックはレンタなので幌つきであった。大学を出発し、用賀から高速道路にのった。厚木のインターで社長のトラックと分かれた。農場につき、家畜を乗せることにした。まず手始めに楽な家畜から……と思ったのはまちがいであった。あの世にも恐ろしい水牛からであった。

「おとなしくトラックに乗ってくれよな」

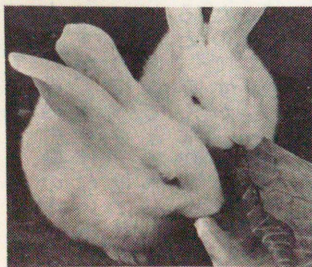
目にはIVの撮影も行なわれ家畜苑は終わった。大盛況だったと思う。

こうして収穫祭も終わり、とりこわしの日が来た。家畜を返し鉄パイプ、バックボードもなくなった。4号館の前が寒々とした、とてつもなく広く感じた。あんなに努力して作ったものがほとんど少しの時間でなくなってしまった。

「空しい」

そう思ったのは俺だけでなく、家畜苑みんなの気持ちだと思ふ。少しきたなかったけどテントに泊り、夜おそくまでパイプを組み立てたこと、そんなことが頭の中をかきめぐった。もう二度とはできない。

授業が始まった今、俺は収穫祭病から脱けきらない。あの熱かった思い、力を合わせがんばった夜、また家畜苑をやるうとして諸君、がんばってくれたまえ。家畜苑は永遠に不滅です……



収穫祭を終えて

畜産学科三年 高橋 さやか

第九十三回収穫祭は私にとってあらゆる意味で心に残るものとなりました。私は、農大収穫祭では畜産学科のシンボルとも言える家畜苑の会計を担当させて頂きました。去年家畜苑製作にあたって来た先輩方は皆「女の子には大変かもしれないな」とおっしゃいました。それなりの覚悟を持って仕事にあたりました。努めて男の人の中でも負けないよう精一杯やろうと思いましたが本音を言えばかなりきつかったです。徹夜のような日々が何日も続く追い込み期間に入ると、日に日に疲れがたまってきたり遅くなったりゆきまします。私は主に装飾を担当していましたが、さすがに三十枚ものベニヤ板に下絵してペンキでぬりつぶしてゆくのは簡単なものではありません。それが出来上がって飾られた時のうれしさは何とも言えないものでした。

うれしかった事は、やはり新しい友達ができたことでしょうか。今まであまり話さなかった人も毎晩同じ場所です。仕事をすれば仲良くなるものです。そしてほんのちよつとの心づかいというものも私にはいいようのないやさしさとして心に残りました。例えば、女の子だって

人によりませんが、たいいていの物はもてますし、徹夜だつて耐えられるものです。ましてあれだけの労働の中では男も女も同様に疲れているはずですが、さりげない気づかいをされて感動致しました。ひとりりでベニヤ板にペタペタと色をぬっていると、だんだんあきてきて休んでしまします。ふと外をのぞいてみると、みんな作業をしていましたし、外に出て気がついたのですが、私の作業している4号館の中とは違って、屋外はなんと寒いことでしょうか。つくづく私は楽をしているなと思えました。さて、収穫祭当日はたくさんの人達が家畜苑に足をとめていて下さいました。何よりうれしかったのは、毎年家畜苑を見ている友達が「今年の家畜苑は装飾がいいよ。毎年見てて、なんとなく殺風景だなあと思っていたんだ」と言ってくれたことでした。私は家畜苑のメンバ―と一緒にがんばってやってきて本当によかったと思えました。洗っても洗っても落ちない爪の間にしみついた緑のペンキを見るのもいやになった時もありましたが、今はもう何もなかったように自転車や車の並んでいる4号館前に行くと、素晴らしい思い出として心に残っているのを実感致します。

ところで、私はもうひとつ重要な役をいただいております。私は、全学応援団バトントワラー部々長として宣伝隊にも参加していたのです。10月中旬より土曜日曜を使って行なわれる都内及び経堂パレードは恒例のものですが、我がバトン部でも、これは年間最大の行事として

一年間の練習の成果をこの場をおかりして皆様に見ていただくとうと努力を重ねております。畜産学科では私ひとりだけで、過去にも畜産学科からの部員はいなかった様ですが、私としても畜産学科の精神をわかりあえる仲間がいないのは大変さみしい事ですので、今後ぜひ畜産の後輩ができればと心より望んでおります。

華やかなバトンと、地味な畜産は対象的ですが、私はどちらも大好きです。一年のときは、バトンに必死でどんなに望んでもできる余裕などなかった畜産苑ですが、今回の参加によって私の望みはかなえられました。ただどちらも忙しい中を必死でやりとげるものですので、バトン部と家畜苑の往復は、どちらにも迷惑をかけていません。からだはひとつしかないのでわかっています。欲ばってしまつた私のがままですが、その点御迷惑をおかけした事お詫び致します。ただ、私共の晴舞台のひとつである都内パレードで、昨晩一緒に金網を張ったり、ペンキを塗ったりしていた仲間と一緒に来て、演技を見守ってくれるのは、何より心強いものでした。

さて、もう一つ書き忘れてはならない事があります。私たちの収穫祭は今回で九十三回目を迎えていたわけですが、この長い歴史を持つ収穫祭、近年段々と規制が厳しくなりました。宣伝隊の方でもそれは、かなり言われております。おかげで今年も例年都内10ヶ所をパレードしていたところを、9ヶ所にされてしまいましたし、経堂ではロープをはりめぐらしてのパレードとなりました。

学科関係の友達からは、「つまらない宣パレだった」とあちこちからさみしそうな声がかかりますし、宣伝隊本部としては、学内と外部との交渉に四苦八苦です。両方を見て、どちらももつともと思える私には何も言えませんでした。また、後日聞いた話ですが、収穫祭最後の晩のファイヤーストームでさえ、青山ほとりがうるさい、のど自慢の音が響いてうるさいと近所から苦情がくるあり様です。学外をパレードするのも許されず、仕方ないので学内で盛りあげようとすれば、それもだめ。これではお祭りになりませんね。何十年も続いて来た、年に一度の楽しみのお祭りが、今に規制だらけになって、都内パレードも、経堂パレードも、家畜苑でさえも、動物のにおいがくさい、などと言われ、なくなってしまうのではないのでしょうか。さみしいものです。お祭りでお祭りさわぎできないほどつまらないものがありますか。しかしこればかりはどうにもなりません。世の中の動きには、なかなか逆えるものではありませんから。みんながみんなお祭りは楽しくさわごうというものではなくなくなっているのです。世代の移り変りをつくづく実感致しました。

体育祭を終えて

畜産学科二年 西川 二朗

収穫祭の最後のイベントとも言うべき、体育祭を任されて、一ヶ月少しの間、ただ、一生けん命のペンキ塗りバックボード作成に、終始していた感じが、今感じる事である。

体育祭と言えば、仮装行列、応援合戦をメインとして各学科を、闘志をむき出しにして競い合う、その体育祭を任されたと言う事は、ズシッと体にかかってくるものを感じました。

そしてこの一ヶ月間、ガムシャラに、精一杯やろうと、考えました。

しかし、やっていく上で、自分の無能さ、いかげんさ、無計画など、つくづく感じさせられた。

一つの失敗は、やぐら装飾に時間の全てをかけすぎてしまった事である。このために、応援合戦、仮装行列の準備が十分でなかった事は、非常に残念だった。

あっとい間の一ヶ月で、まだまだと思っている間に体育祭となり、もう結果は見えていた。惨々たるものだった。

それに、体育祭の最大の仕事である、人数集めも、う

まくいかなかったといえる。もう一押しが足らず、棄権した競技もあり、考え直させられた事もありました。

と言った感じで、体育祭では、自分をみつめ直すのは、いい機会だったように思えます。自分の度量を……しかし、楽しい日々でした。十月の一ヶ月間は……気の合った仲間と、また後輩と、遅くまで準備したのはいい思い出として残っています。

寒い中、4号館にこもり、服をペンキで汚しながら、鼻水をすすりながら、準備する事は大変な事です、非常に楽しい事です。この考え、これからは変わらないと思います。

体育祭の日の夕陽は非常に淋しく見えた。ファイヤーストームの火も淋しく、今年の自分を象徴するかのよう。でも、今度の収穫祭では、楽しく見えるようなそんな夕陽を、ファイヤーストームの灯を見たいものだった。第94回の収穫祭は素晴らしかった、完全燃焼したのだったと、言えるものだと思います。そのために、仲間増やし、自分の失敗を教訓に、また、それを後輩に伝えて頑張っていこうと思います。

昭和六十年度第九十三回収穫祭

畜産学科統一本部役員

○統一委員長	中山 昭洋	3年
○副委員長	古橋 一人	3年
○前夜、特企委員長	古橋 一人	3年
○宣伝隊々長	山田 隆明	2年
○副隊長	伊藤 周	3年
○体育祭委員長	西川 二郎	2年
○副委員長	塚本 渉	1年
○家畜苑委員長	体岡 正行	3年
○副委員長	高橋 剛	3年
○副委員長	山口 幸洋	3年
○北門アーチ委員長	中山 昭洋	3年
○副委員長	富樫 直人	3年
○副委員長	水野 寿道	3年
○副委員長	沢田 由美	3年
○會計補査	藤城 小白合	2年
○書記	福崎 直美	2年

北門アーチ製作委員

委員長	中山 昭洋	3年 (繁)
副委員長	富樫 直人	3年 (繁)
副委員長	水野 寿道	3年 (衛生研)
副委員長	城野 邦子	3年 (繁)
副委員長	早川 智久	3年 (衛生研)
副委員長	那須 広志	3年 (育種研)
副委員長	森山 正人	3年 (生理研)
副委員長	長谷川 俊一	3年 (経営研)

家畜苑実行委員

委員長	体岡 正行	3年 (繁)
副委員長	山口 幸洋	3年 (肉研)
副委員長	高橋 剛	3年 (繁)
副委員長	山崎 さやか	3年 (繁)
副委員長	依田 準一	3年 (繁)
副委員長	新嘉 久一	3年 (繁)
副委員長	酒見 嘉久	3年 (繁)
副委員長	川上 嘉久	3年 (飼養研)
副委員長	豊田 好力	3年 (肉研)
副委員長	久森 雅一	3年 (肉研)
副委員長	室越 孝	3年 (衛生研)
副委員長	和田 健	3年 (経営研)

第九十三回収穫祭



前夜祭 「サンセットホラー」

5位

出演者

伊古山西高山奥寺本塚
藤橋川田橋沢山多本
一人朗明之毅志子涉
23年3年2年2年2年2年1年

特別企画

野外劇「夕陽に別れを告げて」

出演者

古西寺山福田宮川
橋川深隆直素幾
一人朗志明明美子代

2222223
年年年年年年年

先生のど自慢

石島芳郎 先生 「聖者の行進」 7位



芸能選手権

体岡正行 3年「ホテル」 3位
古橋一人 3年「メロディ」 20位
西川二郎 2年「翼の折れたエンジェル」
福崎直美 2年「ミ・アモーレ」
塚本涉 1年「心のこり」

美人コンテスト

宮下裕 1年 8位

Mr.農大

中山昭洋 3年 6位

Miss・農大

古田多美 3年 3位
内山純 1年
寺川恵美子 1年

体育祭

総合 第十二位
バックボード 「騎馬訓練」

設計・製作

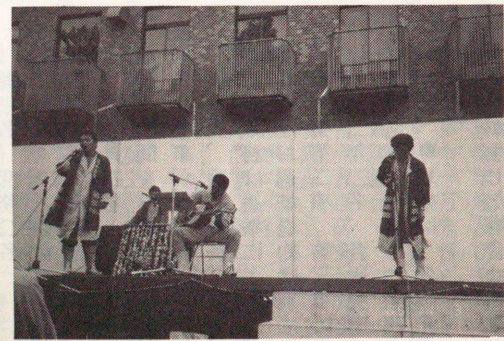
西川 二郎	2年	成瀬 薫	2年
花田 伸一	2年	田原 和明	2年
永田 喜洋	2年	竹中 豊	2年
深津 弘行	1年	塚本 渉	1年

綱引きの部	第五位
先生バンザイ	優勝 (第二レース)
1-10 マラソン	第六位
玉入れ	第十位
農健児の意気を見よ	第六位 (第一レース)
教職員対抗リレー	第六位
仮装行列	第六位
応援合戦	第八位
マスゲーム	第六位
農大競馬	第四位 (第三レース)



第十五回 農友会学内スポーツ大会結果

総合	準優勝
ミニサッカー	予戦敗退
ソフトボール	準優勝
ハンドボール	予戦敗退
バスケットボール	予戦敗退 (男子)
	予戦敗退 (女子)
バレーボール	準優勝 (男子)
	予戦敗退 (女子)
庭球	予戦敗退
ゲートボール	予戦敗退
剣道	予戦敗退
相撲	優勝
卓球	準優勝
バトミントン	予戦敗退
個人の部	
相撲	第三位 井野口 吉正 (畜2)
剣道	優勝 真嶋 順一 (畜1)
庭球	優勝 金子 裕之 (畜4)



東京農業大学畜産学科 “畜友会”規約

第一章 総 則

- 第一条 本会は東京農業大学畜友会と称す。
- 第二条 本会は東京農業大学在學生、教職員、及び卒業生をもつて、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。
- 第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

第二章 会 員

- 第四条 本会の会員は左記の三種をもつて組織する。
- 一、正会員
 - 二、特別会員
 - 三、名誉会員
- 正会員は東京農業大学畜産学科在學生、特別会員は東京農業大学畜産学科卒業生、並びに教職員。名誉会員は役員委嘱により承認を得たもの。
- 第五条 会員が本会の業務執行妨害あるいは名誉を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

第三章 役員及び機関

- 第六条 本会は左記の役員をおく。
- 一、委員長一名、副委員長二名、書記二名、会計一名、会計補佐一名、渉外二名、企画三名、庶務二名
 - 二、一年クラス委員四名、二年クラス委員四名、研究室委員八名
 - 三、監査員四名
- 本会は顧問をおき、畜産学科長ならびに畜産学科主事が此の任にあたる。
- 第七条 一、委員長、副委員長、書記、会計、渉外、企画、庶務は選挙によつて、計十四名選出する。なお選挙規約は別に定める。
- 第八条 一、委員長、副委員長、書記、会計、渉外、企画、庶務は選挙によつて、計十四名選出する。なお選挙規約は別に定める。
- 第九条 一、二年二名、各研究室一名ずつ、監査委員は各学年一名ずつ選出する。
- （なお、専攻生は、各研究室員の中に含まれる。）
- 第十条 一、欠員が生じた場合は、速やかに補充しなければならぬ。
- 第十一条 一、総会は正会員の三分の一以上より成立する。

第四章 業 務

- 第十二条 一、委任状は署名捺印（拇印を含む）を必要とし、議長に一任する。
- 二、委任状は総会に際し定足数に含まれる。
- 三、但し、委任状は議長委任とし、正会員総数の四分の一までとする。
- 四、委任状の検査は役員が行なう。
- 五、本条文は昭和四十三年十二月十八日をもつて追加し即日効力を発する。
- 第十三条 定期総会は年一回十二月に召集する。
- 第十四条 臨時総会は左記に該当した場合一ヶ月以内に召集しなければならない。
- 一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。
 - 二、役員が三分の二以上が必要と認めるとき。
- 第十五条 総会の開催は五日前に公示しなければならない。
- 第十六条 総会における議長は、総会においてその都度互選する。必要に応じて議長は副議長を指名する。
- 第十七条 総会の議決は、出席者の過半数によつて議決され、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 第十八条 総会の過半数により、役員の不信任を可決できる。

第五章 会 計

- 第十九条 会費は年間二〇〇〇円とする。その納入は四年分一括し、入学時に納入のこと。
- 第二十条 本会の運営は会員の納入する会費で運営する。但し第十九条の業務執行にあたり臨時徴収する場合もある。寄附行為は認める。
- 第二十一条 納入金の払い戻しは行なわぬ。
- 第二十二条 但し入学取消しの場合はその限りではない。決算報告は十月末日までに作成し公示する。承認は定期総会において行なう。

第六章 監 査

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為監査委員をおく。

第二十五条 監査委員は、前条の目的達成の為、年度末に会計監査を行なう。

監査は監査委員が必要と認めれば随時できる。

第二十六条 監査委員は第六条第一項、第二項の役員に兼任は出来ない。

第七章 附 則

第二十七条 本規定解釈の疑義は、委員会において、最終的解釈する。

第二十八条 本規定の改正、及び追加は総会においておこなう。

第二十九条 本規定は昭和三十五年六月二十九日より施行する。

畜友会選挙規定

第一章 総 則

第一条 この規定は、畜友会役員選挙に関し、選挙が公明、且つ円滑に行なわれることを目的とする。

第二条 この規定は、畜友会規定第六条第一項に基づく役員選挙に適用される。

第二章 選挙管理委員会

第三条 第一条の目的を達するために、東京農業大学畜友会選挙管理委員会を設置する。(以下本会又は単に選挙管理委員会と呼ぶ。)

第四条 本会は、畜友会役員選出に関して全ての権限を有する。

第五条 本会の委員は、各学年より一名ずつ選出し、委員長はその中より互選する。ただし、これに畜友会役員、及び被選挙人は兼任できない。ただし、各学年の在籍数の過半数によって選挙は成立し、三分の二以上の挙手二名以上の場合には挙手をもって最高点を当選とする。本会の委員の任期は原則として、畜友会の事業年度に準ずるものとする。

第七条

本会は選挙が公明且つ適正に行なわれるように常にあらゆる機会を通じて、公示及び選挙期日、方法、その他必要と認める事項を畜友会会員に周知させなければならない。畜友会規定第十六条によって、畜友会役員の不信任を審査し、成立した場合には、本会は新たに役員選挙を行なう。

第八条

第三章 選 挙

第九条 選挙はクラス、研究室の移動投票により行なう。

第十条 一、投票期日並びその期間は事業年度終了日以前の日時を原則とし、選挙管理委員会がこれを定める。
二、畜友会役員の不信任が成立した場合には、二週間以内に選挙を行なう。

なお、不測の事態が生じた場合は、選挙管理委員会の決するところによる。

第十一条

選挙管理委員会は投票日の十日前に公示しなければならない。

第十二条

選挙人、及び被選挙人は、畜友会正会員とする。

第十三条

選挙は立候補制とし推薦者一名を必要とする。選挙管理委員会は立候補者に対して選挙宣伝の為、適切な援助を与えるものとする。

第十五条

投票に関しては左記の規定に基づいて行なう。
(イ) 投票は同一投票用紙において役員十四名については無記名で投票する。

(ロ) 投票は選挙管理委員会の定める用紙により行なう。

(ハ) 代理投票及び不在者投票は認めない。
(ニ) 投票箱は厳重に封鎖されたものを用い、投票終了後は封印され、開票時まで開くことはない。

(ホ) 投票場は選挙管理委員会が定める。
(ヘ) 開票は全投票終了後、たちに行なう。

第十六条

開票は選挙管理委員会の定める場所において、立候補者またはその代理人の立合いのもとで行なう。

第十七条

第十八条

左記の投票は無効とする。

(イ) 正規の投票用紙を用いていないもの。
(ロ) 立候補者以外の氏名を記入しているもの。

(ハ) 選挙管理委員会が不明と認めたもの。
(ニ) 畜友会正会員の二分の一をもって最低投票数とし、これに満たないとき、選挙は無効とする。

第十九条

当選は有効投票数の上位の委員定数までの者とする。

第二十条

立候補者が定数のときは信任投票を行ない有効投票数の過半数をもって当選とする。

第二十二條 選挙管理委員会は開票後二日以内に適當な方法をもって、当選者を公表しなければならない。

第二十三條 選挙管理委員会は選挙記録を作成し、一年以上保管する。

第二十四條 選挙管理委員会は畜友会会員に選挙記録の提示を求められた時には、いかなる事情があってもこれに応じなければならない。

第四章 予算及び監査

第二十五條 畜友会は選挙管理委員会の必要とする経費を支出しなければならない。

第二十六條 選挙管理委員会は年度末に畜友会会計監査委員の監査をうける。

第五章 改正

第二十七條 本規定は畜友会総会において三分の二以上の賛成をもって成立する。

第二十八條 本規定に疑義が生じた時は、選挙管理委員会が最終的に解釈する。

第二十九條 本規定は昭和五十年四月一日より施行する。

編集後記

今年で「ふじみの」も25号を発行することができ編集員一同嬉しく思っております。

我々編集員一同は、皆様方に御満足して戴くようにさまざまな企画を豊富にとりそろえ発刊した次第であります。いががでしてでしょうか。至らない点は、今後一層努力してゆく次第であります。

最後になりましたが、この場を、おかりしまして原稿を頂きました学内・学外の諸氏、諸先輩に感謝すると共に、今後とも「ふじみの」及び畜友会への変わらぬ御理解と御支援、御協力をお願い致します。

編集員一同

編集部では「ふじみの」第二十六号の原稿を募集致しております。より一層充実したものとす為にも、名譽会員、特別会員、学生多数の御協力をお願いします。

記

募集期間 六十一年九月～十一月下旬

要項 論文、随筆、紀行文、主張
四〇〇字詰十枚以内

写真カット、は随意
表紙図案、三色以内

宛名 東京都世田谷区桜丘一―一
東京農業大学畜産学科内

畜友会

ふじみの編集委員会

発行日 昭和六十二年一月予定

応募原稿は一切お返し致しません。

畜友会「ふじみの」

編集委員会

TEL (四二〇〇) 二二二二 (呼)

昭和61年3月1日発行
“ふじみの”第25号
編集責任者 中山昭洋
発行者 中山昭洋
発行所 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学畜友会
電話(420)2131(呼)
印刷所 世田谷区経堂1-6-13
エルデ・タイプ社
電話(429)1067

毎度ありがとうございます

- ★ 日替りサービス定食 400円
- ★ やきそば 200円
- ★ 各種定食 300円より

農大一高正門前

コンパ
弁当も
承ります

キッチン ニシモト

TEL 429-0578

建築金物, 日曜大工用品
各種塗料, 砂利, 砂, 園芸用品
セメント, コンクリート製品 etc

稲毛屋商会

世田谷通り拓銀隣り TEL 426-0505~6
工場TEL 420-1913

皆様の食堂

清潔な設備
低廉な価格

明るいホール

農大食堂

電話 420-4116

歓迎会・部会・クラス会等に御利用下さい

松木家

渋谷円山三業会館隣
電話 (461)2651
(476)4471

酒類・食料品

おりべ酒店

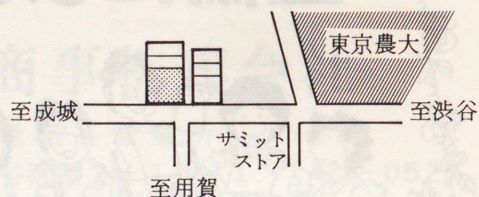
東京農大北門前

電話 420-0359

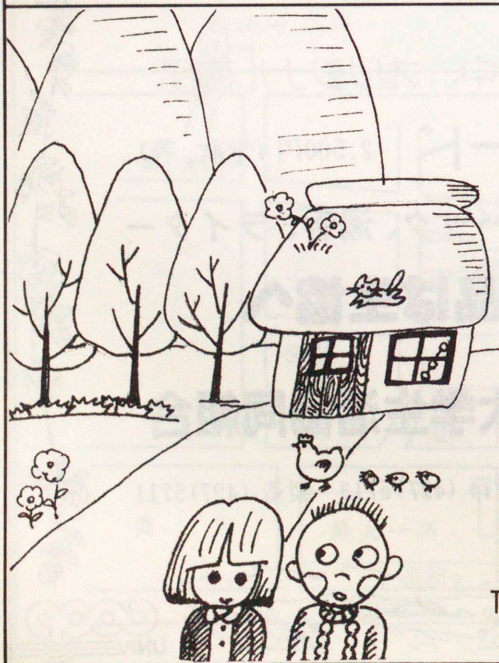
Liquor & Wine shop

KADOYA

和・洋酒
国産&輸入タバコ
菓子・つまみ
その他



3-24-1 Sakuragaoka
Setagaya Tokyo ☎ 429-5175



昼ランチ
夜パブタイム
ボトルキープ
日本酒, ワイン
ウイスキー, 梅酒

茶味家

チャー ミー はうす

TEL 420-3484

MOS BURGER



THE MOST DELICIOUS
HAMBURGER

モスバーガー 世田谷 桜町店

理科学機器から家電製品まで
何でも御相談に応じます

科学機器設計製作販売



テザキ科学機器株式会社

〒110 東京都台東区下谷2丁目23-5

TEL (873) 9019番 取引銀行 富士銀行鶯谷支店

風呂屋 (有) **神 仙 湯**

世田谷区桜 2-15-16 420-3726

材木屋 (有) **丸 美 木 材**

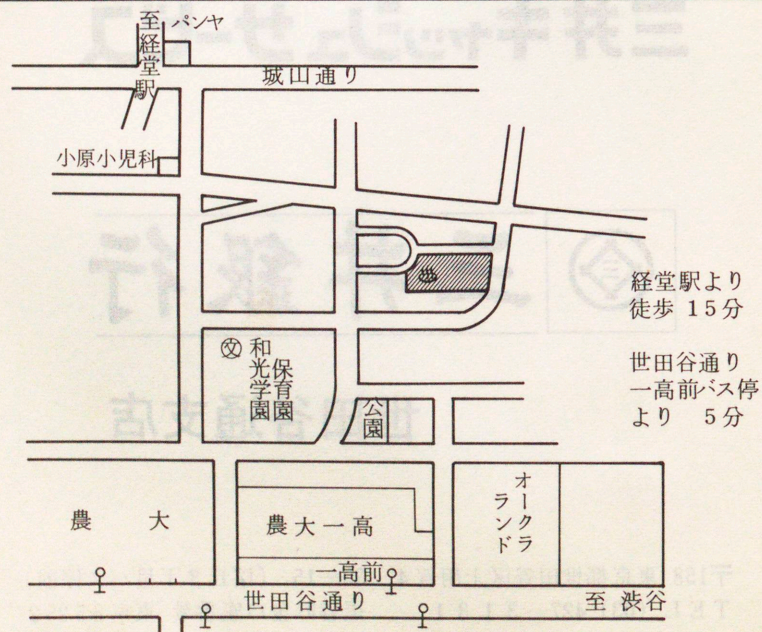
世田谷区桜 2-15-1 428-0521

不動産 **東京商事株式会社**

世田谷営業所

世田谷区桜 2-15-1 428-0521

代表取締役 深 美 博 之



入学・卒業の記念の時に
研究室、クラブ、サークル、県人会に

コンパのことは 生協にまかせて



予算は相談にて

生協グリーン

西村まで

好評!! 発売中、オリジナル商品

農大レコード 2,500円 (学歌、等)

トレーナー、バック、湯呑、ライター

記念品は生協へ

東京農業大学生生活協同組合

購買 (427) 5715 書籍 (427) 5713 製造 (427) 5711



東京農業大学の取引銀行として最も
ご縁の深い三井銀行をご利用ください

★カードで出せるスピード窓口



1,000円きざみでお金がだせる

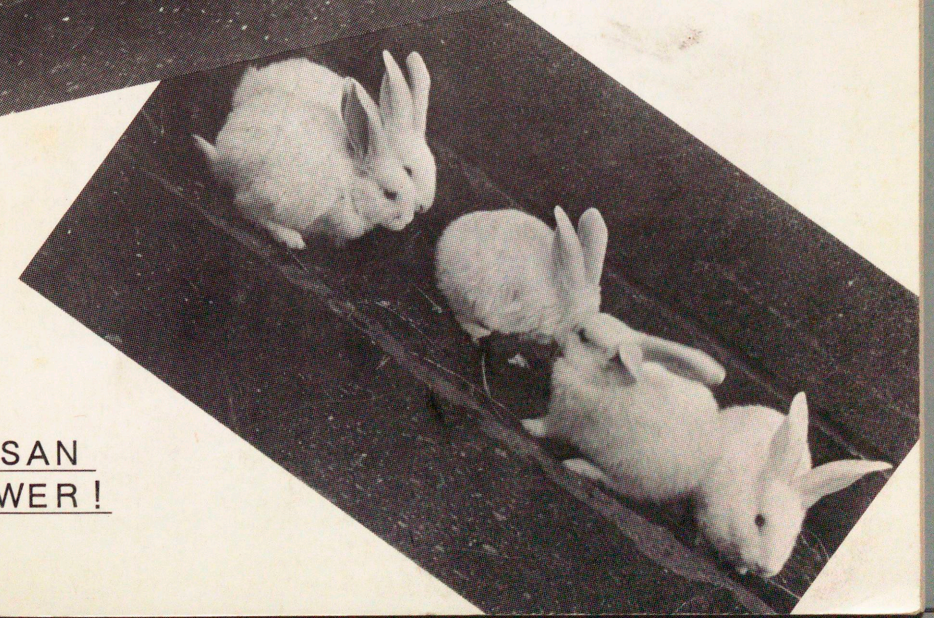
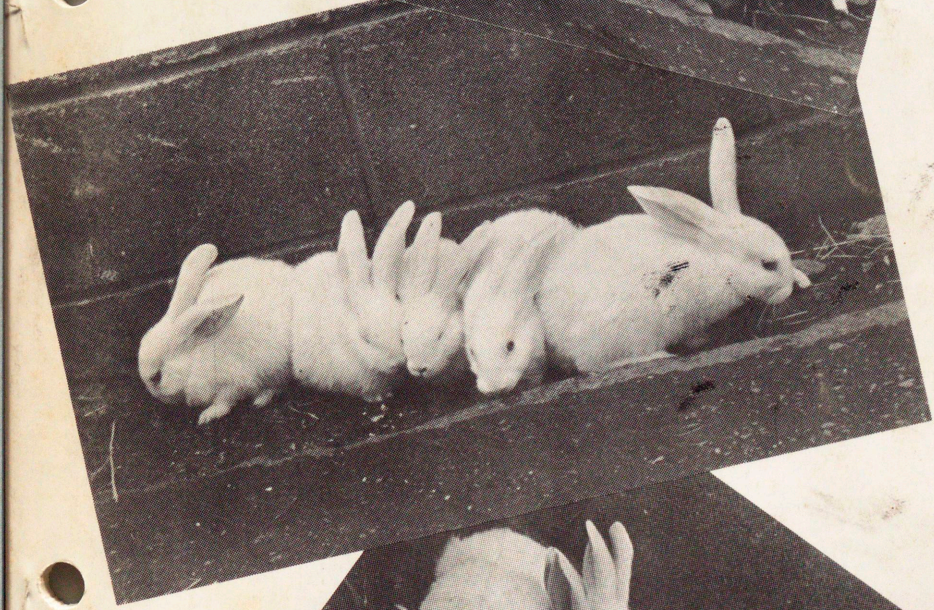
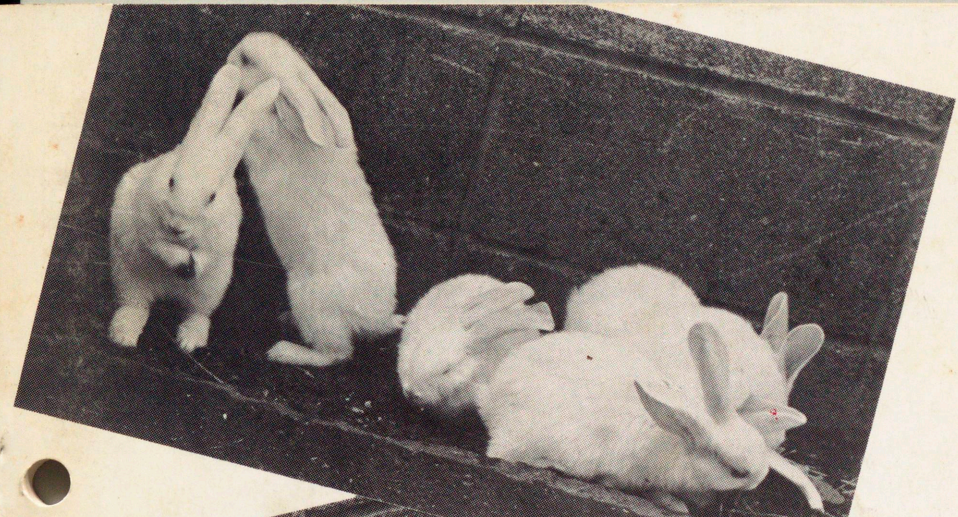
三井キャッシュサービス



三井銀行

世田谷通支店

〒158 東京都世田谷区上用賀4-35-15 (桜丘3丁目バス停前)
TEL (03) 427-3131 振替貯金口座番号 東京85252



CHIKUSAN
POWER!